

vSphere Web Access システム管理 者ガイド

Update 1
vSphere Web Access 4.0
vCenter Server 4.0
ESX 4.0

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、
ここで書いてある各商品と後続のすべてのバージョンをサ
ポートします。このドキュメントの最新版をチェックする
には、 <http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を
参照してください。

JA-000261-00

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/pubs/>) にあります。VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2008, 2009 VMware, Inc. All rights reserved. 本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエルムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

- 本書について 5
- 1 VMware vSphere Web Access の概要 7
 - vSphere Web Access について 7
 - vSphere Web Access の主な機能 8
 - vSphere Web Access を実行するクライアントのシステム要件 8
- 2 vSphere Web Access の使用 11
 - ESX ホストでの vSphere Web Access Service の実行 11
 - vCenter Server での vSphere Web Access Service の実行 12
 - vSphere Web Access への接続 12
 - vSphere Web Access からのログアウト 13
- 3 vSphere Web Access を使用した仮想マシンの管理 15
 - インベントリへの仮想マシンの追加 15
 - vSphere Web Access を使用した仮想マシンの作成 16
 - VMware Remote Console について 24
 - VMware Tools の管理 28
 - 仮想マシンのタスク、アラーム、およびイベント 30
 - 仮想マシンのショートカットの作成 31
 - 仮想マシンのハードウェアバージョンのアップグレード 33
 - 仮想マシンの電源状態の変更 33
 - 仮想マシンの削除 33
- 4 仮想マシンのオプションとリソースの構成 35
 - 仮想マシンのハードウェア構成の変更 35
 - 仮想マシンからのハードウェア コンポーネントの削除 40
 - 仮想マシンの設定およびオプションの変更 43
- 5 仮想マシンへのハードウェアの追加 47
 - 仮想マシンへのハードウェアの追加 47
- 6 スナップショットの作成と管理 55
 - スナップショットを作成しないとき 56
 - スナップショットとログの変更 56
 - スナップショットの作成 56
 - スナップショットへの復帰 57
 - スナップショットの削除 57
 - スナップショットのパワーオフ オプションの設定 57

7	vSphere Web Access のエラーのトラブルシューティング	59
	ブラウザエラー 503 サービスを使用できません	59
	VMware Remote Console が Internet Explorer でロードされない	60
	VMware Remote Console が Firefox でロードされない	61
	ゲスト OS にソフトウェアをインストールする際に発生する問題	61
	仮想マシンの電源操作時に発生する問題	61
	サポート対象外のバージョンの Firefox	62
	Web プロキシが IPv6 アドレスをサポートしない	62

	インデックス	65
--	--------	----

本書について

本書では、VMware® ESX および VMware® vCenter Server 用の仮想マシンを、VMware® vSphere Web Access を使用して作成、構成、および管理する方法について説明します。

対象読者

本書は、ESX をインストール、アップグレード、または使用する方を対象としています。本書の情報は、仮想マシンテクノロジーおよびデータセンター運用に精通した、経験の豊富な Windows または Linux システムの管理者向けに記載されています。

本書へのフィードバック

ドキュメントの向上にご協力ください。本書に関するコメントがございましたら、docfeedback@vmware.com へご連絡ください。

VMware vSphere のドキュメント

vSphere のドキュメントは、VMware vCenter Server のドキュメントと、ESX/ESXi のドキュメントを組み合わせで構成されています。

テクニカル サポートおよび教育リソース

次のテクニカル サポート リソースが利用できます。本書およびその他の文書の最新バージョンは、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> をご覧ください。

オンライン サポートおよび電話によるサポート

テクニカル サポート リクエストの提出や、製品および契約情報の確認、製品の登録をオンラインで行うには、<http://www.vmware.com/jp/support> をご覧ください。

該当するサポート契約を結んでいるお客様の場合、迅速な対応が必要な Severity1 の問題に関しては電話でのサポートをご利用ください。詳細は http://www.vmware.com/jp/support/general_service_info.html をご覧ください。

サポート サービス

お客様のビジネス ニーズに適した各種サポートの詳細については、<http://www.vmware.com/jp/support/services> をご覧ください。

VMware プロフェッショナル サービス

VMware 教育サービスの有償トレーニングでは、広範なハンズオン ラボやケーススタディをご紹介します。また、業務の際のリファレンスとしてお使いいただける資料も提供しています。トレーニングは、オンサイト、講義形式、およびライブ オンラインで実施できます。オンサイトのパイロット プログラムおよび実装のベスト プラク

ティスについては、VMware コンサルティング サービスがご使用の仮想環境の評価、計画、構築、および管理に役立つサービスを提供しています。教育トレーニング、認定プログラム、およびコンサルティング サービスについては、<http://www.vmware.com/jp/services> をご覧ください。

VMware vSphere Web Access の概要

VMware® vSphere Web Access はブラウザ ベースのアプリケーションです。ESX および vCenter Server 導入環境で仮想マシンを管理するために使用します。vSphere Web Access を使用して、仮想マシンの設定およびゲスト OS へのアクセスをユーザーに与えることができます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vSphere Web Access について \(P. 7\)](#)
- [vSphere Web Access の主な機能 \(P. 8\)](#)
- [vSphere Web Access を実行するクライアントのシステム要件 \(P. 8\)](#)

vSphere Web Access について

Web ブラウザを使用して、vSphere Web Access を開き、ESX ホストまたは vCenter Server に格納されている仮想マシンを管理します。

vSphere Web Access は、仮想マシンの管理にかかわる次の処理を実行する方を対象に製造されています。

- vSphere Client なしで仮想マシンにアクセスする必要があるシステム管理者。
- リモート デスクトップとして仮想マシンを使用するユーザー。
- 仮想マシンにリモートで通信する必要がある vSphere 管理者。

vSphere Web Access インターフェイスでは、ESX ホストおよび vCenter Server 上のすべての仮想マシンの概要を確認できます。vSphere Web Access を使用して、次のように仮想マシンを管理できます。

- ブラウザを使用してホストや仮想マシンの詳細情報を参照。
- 仮想マシンの電源操作を実行。
- 仮想マシンの構成およびハードウェアを編集。
- ユーザーが各自の仮想マシンへのアクセスに使用できる VMware Remote Console URL を生成。
- 仮想マシンで実行されているゲスト OS と通信。
- Linux システムから ESX ホストおよび vCenter Server にアクセス。

vSphere Web Access は、仮想マシン管理を主眼に置いているため、vSphere Client で利用可能な管理タスクのすべてを提供しているわけではありません。

vSphere Web Access の主な機能

vSphere Web Access には仮想マシンの管理に役立つ重要な機能一式が用意されています。

- Linux および Windows のシステムから ESX ホストおよび vCenter Server にアクセス。
- vSphere Client をインストールすることなく ESX ホストや vCenter Server インスタンス上の仮想マシンにアクセス。
- ESX ホストに新規仮想マシンを作成。
- 既存の仮想マシン設定を構成。
- 仮想マシンをインベントリに追加。
- インベントリから仮想マシンを削除。
- 仮想マシンの電源操作の実行（起動、停止、リセット、サスペンド、およびレジューム）。
- データセンター、ESX ホスト、および仮想マシンの稼働状況を監視。
- VMware Remote Console を使用する仮想マシン内で実行されているゲスト OS と通信が可能。
- 仮想マシンの URL およびデスクトップショートカットを生成。
- 仮想マシンのスナップショットを作成および管理。
- 仮想マシンのスナップショットの階層を完全に管理。
- エンドユーザーに仮想マシンへのアクセス権を提供。
- 自身のコンピュータからクライアント デバイス（CD/DVD ドライブなど）を使用して、ソフトウェアのインストールやデータのコピーを実行。

vSphere Web Access を実行するクライアントのシステム要件

vSphere Web Access を実行するには、ハードウェアおよびソフトウェアの要件を満たし、かつサポート対象の Web ブラウザのいずれかを使用するクライアントシステムが必要です。

Windows または Linux のいずれかのオペレーティングシステムがインストールされている基本的なハードウェア構成のシステムであれば、vSphere Web Access を実行できます。vSphere Web Access を実行するには、Internet Explorer または Mozilla Firefox を使用してください。

ハードウェア要件

vSphere Web Access は、ハードウェアの最小要件を満たすあらゆるシステムで動作できます。

vSphere Web Access を実行するために必要なハードウェアの最小要件は次のとおりです。

- 標準の x86 ベースのコンピュータ。
- 266MHz のプロセッサ（500MHz 以上を推奨）。
- 128MB の RAM（256MB 以上を推奨）。
- VMware Remote Console ブラウザ プラグインのインストール用の空き容量：Windows ホストの場合 20MB、Linux ホストの場合 10MB。

オペレーティングシステムの要件

vSphere Web Access は Windows および Linux オペレーティングシステムで動作できます。

表 1-1 に、サポートされている Windows のバージョンおよび Linux 要件を示します。

表 1-1. サポートされているオペレーティング システム

システム	要件
Windows	<ul style="list-style-type: none"> ■ Microsoft Windows 2003 Web Edition Service Pack 1、Windows 2003 Standard Edition Service Pack 1、または Windows Server 2003 Enterprise Edition Service Pack 1 ■ Windows XP Professional Service Pack 3 または Windows XP Home Edition Service Pack 2 ■ Microsoft Windows 2000 Professional Service Pack 4、Windows 2000 Server Service Pack 4、または Windows 2000 Advanced Server Service Pack 4
Linux	<ul style="list-style-type: none"> ■ Linux カーネル 2.2.14 以降 ■ glibc 2.3.2 以降 ■ XFree86-3.3.6 以降 ■ gtk+2.0 以降 ■ fontconfig (別名 xft) ■ libstdc++5 以降

ブラウザの要件

vSphere Web Access の実行には、Microsoft Internet Explorer および Mozilla Firefox Web ブラウザを使用できます。

次のブラウザを使用した vSphere Web Access の動作を認定しています。ただし、ほかのブラウザが必ずしも使用できないというわけではありません。その他の要件については、使用しているブラウザ ベンダーのドキュメントを参照してください。ブラウザには、そのベンダーが推奨するすべてのセキュリティおよび安定性のアップデートが適用されている必要があります。

- Internet Explorer 6.0、7.0 以降 (Microsoft Windows 版)
- Mozilla Firefox 2.0、3.0 以降 (Microsoft Windows 版)
- Mozilla Firefox 2.0、3.0 以降 (Linux 版)

vSphere Web Access の使用

vSphere Web Access サービスは ESX 4.0 または vCenter Server 4.0 のインストール時にインストールされますが、デフォルトでは起動されません。仮想マシンにログインして管理し始める前に、ESX または vCenter Server インスタンスで vSphere Web Access サービスを起動する必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ESX ホストでの vSphere Web Access Service の実行 \(P. 11\)](#)
- [vCenter Server での vSphere Web Access Service の実行 \(P. 12\)](#)
- [vSphere Web Access への接続 \(P. 12\)](#)
- [vSphere Web Access からのログアウト \(P. 13\)](#)

ESX ホストでの vSphere Web Access Service の実行

Web ブラウザを使用して接続する前に、ESX ホストの vSphere Web Access サービスを実行する必要があります。サービスが現在実行中でない場合、ログインできません。

開始する前に

vSphere Web Access サービスのステータスを確認して実行するには root 権限が必要です。

手順

- 1 root 権限を使用して ESX ホストにログインします。
- 2 Web Access サービスが実行されているかどうかを確認するコマンドを入力します。

```
service vmware-webAccess status
```

サービスが実行されているかどうかを示すメッセージが表示されます。

- 3 (オプション) vSphere Web Access が実行されていない場合は、コマンドを入力して Web Access を起動します。

```
service vmware-webAccess start
```

次に進む前に

これで、vSphere Web Access を使用して ESX ホストに接続できます。

vCenter Server での vSphere Web Access Service の実行

Web ブラウザを使用して接続する前に、vCenter Server の vSphere Web Access サービスを実行する必要があります。サービスが現在実行中でない場合、ログインできません。

開始する前に

システム管理者権限を使用して vCenter Server にログインする必要があります。

手順

- 1 vCenter Server Desktop で、[マイ コンピュータ] を右クリックし、[管理] を選択します。
[コンピュータの管理]ウィンドウが表示されます。
- 2 [サービスとアプリケーション] を展開し、[サービス] を選択します。
- 3 リストから VMware VirtualCenter Management Webservices を探し、サービスが実行されているかどうかを確認します。
- 4 サービスが実行中でない場合は、[VMware VirtualCenter Management Webservices] を右クリックし、[開始] を選択します。

次に進む前に

これで、vSphere Web Access を使用して vCenter Server に接続できます。

vSphere Web Access への接続

vSphere Web Access を使用して ESX ホストまたは vCenter Server に接続できます。

開始する前に

vSphere Web Access に接続する前に、vSphere Web Access サービスが実行されていることを確認してください。さらに、ESX ホストまたは vCenter Server へのアクセス権に加え、Web ブラウザとの互換性も必要です。

vSphere Web Access を使用して IPv6 アドレスで ESX ホストまたは vCenter Server に接続する前に、Web プロキシが IPv6 アドレスをサポートしていることを確認してください。

手順

- 1 Web ブラウザを起動します。
- 2 インストールされている ESX ホストまたは vCenter Server の URL を入力します。
https://<<ホスト名またはサーバ名>>/ui
- 3 [ログイン] ウィンドウで、ユーザー名およびパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

重要 ポップアップ ブロッカーが有効になっている場合は、ポップアップ ブロッカーが検出されたことを通知するメッセージが表示されます。クライアント デバイスを使用するために、ポップアップ ブロッカーを無効にします。

vSphere Web Access のメイン画面が表示されます。

vSphere Web Access からのログアウト

ESX ホストまたは vCenter Server からログアウトすることによって、実行中の vSphere Web Access インスタンスを閉じることができます。

手順

- ◆ vSphere Web Access が実行されているウィンドウまたはタブ内で、右上隅にある [ログアウト] をクリックします。ログアウト処理が実行され、ESX ホストまたは vCenter Server との接続が切断されます。

vSphere Web Access を使用した仮想マシンの管理

3

vSphere Web Access を使用して、仮想マシンを追加、作成、および削除できます。ゲスト OS および VMware Tools のインストールや、仮想マシンのユーザー用の仮想マシン ショートカットの作成も可能です。

この章では次のトピックについて説明します。

- [インベントリへの仮想マシンの追加 \(P. 15\)](#)
- [vSphere Web Access を使用した仮想マシンの作成 \(P. 16\)](#)
- [VMware Remote Console について \(P. 24\)](#)
- [VMware Tools の管理 \(P. 28\)](#)
- [仮想マシンのタスク、アラーム、およびイベント \(P. 30\)](#)
- [仮想マシンのショートカットの作成 \(P. 31\)](#)
- [仮想マシンのハードウェアバージョンのアップグレード \(P. 33\)](#)
- [仮想マシンの電源状態の変更 \(P. 33\)](#)
- [仮想マシンの削除 \(P. 33\)](#)

インベントリへの仮想マシンの追加

ESX ホストまたは vCenter Server のインベントリに既存の仮想マシンを追加できます。

手順

- 1 [メニュー] ツールバーで [仮想マシン] - [インベントリに仮想マシンを追加する] を選択します。

[既存の仮想マシンの追加]ウィンドウが開きます。

- 2 追加する仮想マシンの `.vmx` ファイルを探し、[OK] をクリックします。

仮想マシンがインベントリに追加されます。

次に進む前に

仮想マシンをパワーオンし、ゲスト OS を使用できます。

vSphere Web Access を使用した仮想マシンの作成

vSphere Web Access を使用して、仮想マシンを作成したり、マシンのハードウェア構成にデバイスを追加したりすることができます。

開始する前に

[仮想マシンの作成]ウィザードを使用するには、ESX ホストに接続する必要があります。

[メニュー] ツールバーで、[仮想マシン] - [仮想マシンの作成] を選択し、[仮想マシンの作成]ウィザードを起動します。

手順

- 1 **新しい仮想マシンの名前と場所の指定** (P. 17)
新しい仮想マシンに名前を指定できます。また、仮想マシンのファイルを保存するデータストアを選択することもできます。
- 2 **新しい仮想マシンのゲスト OS の選択** (P. 17)
新しい仮想マシンにインストールするゲスト OS のタイプを選択できます。たとえば、Windows、Novel Netware、Solaris、Linux、およびその他のオペレーティングシステムがあります。
- 3 **メモリ容量とプロセッサ数の指定** (P. 17)
新しい仮想マシンに割り当てるメモリの容量を指定できます。また、使用するプロセッサ数を指定することもできます。
- 4 **新しい仮想マシンへのハード ディスクの追加** (P. 18)
新しい仮想マシンにハード ディスクを追加するには、新しい仮想ハード ディスクを作成するか、別の仮想マシンの仮想ハード ディスクを使用します。
- 5 **新しい仮想マシンへのネットワーク アダプタの追加** (P. 19)
ネットワーク アダプタを追加すると、仮想マシンのネットワークを設定できます。
- 6 **新しい仮想マシンへの CD または DVD ドライブの追加** (P. 20)
仮想 CD/DVD ドライブを物理ドライブに接続できます。また、ホスト ファイルシステムにある ISO イメージを使用することもできます。
- 7 **新しい仮想マシンへのフロッピー ドライブの追加** (P. 21)
仮想マシンにフロッピー ドライブを追加できます。物理フロッピー ドライブ、フロッピー イメージ、またはホスト ファイルシステムに新規作成したイメージを使用できます。
- 8 **新しい仮想マシンへの USB コントローラの追加** (P. 23)
仮想マシンに USB コントローラを追加できます。ただし、仮想マシン内の USB デバイスを接続して使用することはできません。
- 9 **新しい仮想マシンのハードウェア構成の確認** (P. 23)
仮想マシンの作成を完了する前に、ハードウェア構成を確認できるほか、仮想マシンにハードウェアを追加することもできます。
- 10 **ゲスト OS のインストール** (P. 23)
新しい仮想マシンは、ハード ディスクが空の物理コンピュータに似ています。仮想マシンを使用する前に、仮想ディスクをパーティショニングしてフォーマットし、オペレーティングシステムをインストールする必要があります。オペレーティングシステムのインストール プログラムによって、パーティショニングおよびフォーマットの手順が実行される場合があります。

次に進む前に

これで、仮想マシンをパワーオンし、VMware Remote Console を起動してゲスト OS を使い始めることができます。

新しい仮想マシンの名前と場所の指定

新しい仮想マシンに名前を指定できます。また、仮想マシンのファイルを保存するデータストアを選択することもできます。

手順

- 1 名前と場所ページの [名前] フィールドに仮想マシンの名前を入力します。
- 2 仮想マシンのファイルを保存するデータストアを選択し、[次へ] をクリックします。

仮想マシンに指定した名前は、マシンの構成が終了したらインベントリ パネルに表示されます。

新しい仮想マシンのゲスト OS の選択

新しい仮想マシンにインストールするゲスト OS のタイプを選択できます。たとえば、Windows、Novel Netware、Solaris、Linux、およびその他のオペレーティングシステムがあります。

手順

- 1 ゲスト OS ページの [オペレーティングシステム] リストで、オペレーティングシステムのタイプを選択します。
- 2 [バージョン] ドロップダウン メニューで、特定のオペレーティングシステムを選択します。
- 3 (オプション) [製品互換性] をクリックし、新しい仮想マシンに使用するハードウェア バージョンを選択します。
デフォルトのハードウェア バージョンは 7.0 です。
- 4 [次へ] をクリックします。

選択内容は、ESX で次の処理に使用されます。

- 適切なデフォルト値の選択 (必要なメモリ容量など)。
- 仮想マシンに関連付けられているファイルの命名。
- 最適なパフォーマンスを獲得するための設定の調整。
- ゲスト OS 内の特殊な動作や既知の問題の回避。

メモリ容量とプロセッサ数の指定

新しい仮想マシンに割り当てるメモリの容量を指定できます。また、使用するプロセッサ数を指定することもできます。

ハードウェア バージョン 7.0 の場合、仮想マシンあたりのメモリの最大容量は 255GB です。

手順

- 1 メモリとプロセッサ ページのプロセッサ セクションで、仮想マシンにメモリを割り当てます。

オプション	説明
カスタム メモリ容量の入力	サイズ フィールドにメモリの容量を入力します。 重要 推奨される最小値未満の値を入力しないでください。最小値未満の値を入力すると、ゲスト OS を実行できない場合があります。
推奨サイズ	推奨されるメモリ サイズを割り当てます。
推奨最小値	推奨される最小メモリ サイズを割り当てます。
推奨最大値	推奨される最大メモリ サイズを割り当てます。

- 2 プロセッサ セクションの [プロセッサ数] ドロップダウン メニューで、使用するプロセッサ数を選択します。

重要 ゲスト OS のインストール後はプロセッサ数を再設定しないことをお勧めします。

- 3 [次へ] をクリックします。

新しい仮想マシンへのハード ディスクの追加

新しい仮想マシンにハード ディスクを追加するには、新しい仮想ハード ディスクを作成するか、別の仮想マシンの仮想ハード ディスクを使用します。

手順

- ◆ ハード ディスク ページで、新しい仮想ディスクを作成するか、既存の仮想ディスクを使用するかを選択します。

オプション	アクション
新規仮想ディスクの作成	仮想マシンに空のディスクを追加します。
既存の仮想ディスクの使用	別の仮想マシンのハード ディスクを再利用または共有します。
ハード ディスクを追加しない	ハード ディスクを追加する手順を省略します。

プロパティ ページが表示されます。ハード ディスクを追加しないことを選択した場合は、ネットワーク アダプタ ページが表示されます。

新しい仮想ディスクのカスタマイズ

新しいハード ディスクの容量、その場所、ディスクの稼働モード、ディスク デバイスのタイプ、および書き込みキャッシュのポリシーを指定できます。

手順

- 1 ハード ディスク ページで [新規仮想ディスクを作成する] をクリックしてカスタマイズします。
- 2 プロパティ ページで、新しい仮想ディスクの容量を [容量] テキスト ボックスに入力します。

容量は、ドロップダウン メニューから [MB] または [GB] を選択することで、メガバイト単位にするかギガバイト単位にするかを指定できます。

注意 ディスクの最大サイズを 1MB ~ 2047GB の値に設定します。ファイル システムのブロック サイズが 8MB に設定されている場合のみ、仮想ディスクのサイズを 2047GB に設定できます。ブロック サイズおよびファイルの最大値の詳細については、『VMware vSphere 4.0 構成の上限』を参照してください。

- 3 新しい仮想ディスクに別の場所を指定するには、[場所] フィールドで [参照] をクリックします。
仮想ディスクは、選択したデータストアに `.vmdk` ファイルとして保存されます。
- 4 独立モードでディスクを実行するには、[ディスク モード] をクリックして [独立モード] を選択し、適切なオプションをクリックします。

オプション	アクション
通常	通常モードのディスクは、物理コンピュータ上の従来のディスクと同様に動作します。通常モードのディスクに書き込まれたすべてのデータは、永続的にこのディスクに書き込まれます。
読み取り専用	読み取り専用モードのディスクへの変更は、仮想マシンをパワーオフまたはリセットしたときに破棄されます。読み取り専用モードでは、仮想マシンを再起動するときに仮想ディスクが常に同じ状態になります。ディスクへの変更は REDO ログ ファイルに書き込まれ、このファイルから読み取られます。REDO ログ ファイルはパワーオフまたはリセット時に削除されます。

- 5 仮想ディスクのアダプタ タイプとデバイス ノードを指定するには、[仮想デバイス ノード] をクリックします。
 - a [アダプタ] ドロップダウン メニューで、アダプタのタイプを選択します。
 - b [デバイス] ドロップダウン メニューで、使用可能なデバイス ノードを選択します。

- 6 仮想ディスクの書き込みキャッシュのポリシーを変更するには、[ポリシー] をクリックし、適切なオプションを選択します。

オプション	アクション
安全を優先して最適化	仮想ディスクへの変更をすべて保存してから、システムに通知します。
パフォーマンスを優先して最適化	仮想ディスクへの変更をすぐに確認しますが、保存はあとで行います。

- 7 [次へ] をクリックします。

これで、仮想ディスクが構成され、仮想マシンのハードウェアに追加されました。

既存の仮想ディスクの参照

作成する仮想マシンに既存の仮想ディスクを使用できます。既存の仮想ディスクをカスタマイズすることも可能です。

手順

- 1 ハードディスク ページで [既存の仮想ディスクを使用する] をクリックしてカスタマイズします。
- 2 プロパティ ページで [参照] をクリックして既存の仮想ディスクを指定します。
- 3 独立モードでディスクを実行するには、[ディスク モード] をクリックして [独立モード] を選択し、適切なオプションをクリックします。

オプション	アクション
通常	通常モードのディスクは、物理コンピュータ上の従来のディスクと同様に動作します。通常モードのディスクに書き込まれたすべてのデータは、永続的にこのディスクに書き込まれます。
読み取り専用	読み取り専用モードのディスクへの変更は、仮想マシンをパワーオフまたはリセットしたときに破棄されます。読み取り専用モードでは、仮想マシンを再起動するときに仮想ディスクが常に同じ状態になります。ディスクへの変更は REDO ログ ファイルに書き込まれ、このファイルから読み取られます。REDO ログ ファイルはパワーオフまたはリセット時に削除されます。

- 4 仮想ディスクのアダプタ タイプとデバイス ノードを指定するには、[仮想デバイス ノード] をクリックします。
 - a [アダプタ] ドロップダウン メニューで、アダプタのタイプを選択します。
 - b [デバイス] ドロップダウン メニューで、使用可能なデバイス ノードを選択します。
- 5 仮想ディスクの書き込みキャッシュのポリシーを変更するには、[ポリシー] をクリックし、適切なオプションを選択します。

オプション	アクション
安全を優先して最適化	仮想ディスクへの変更をすべて保存してから、システムに通知します。
パフォーマンスを優先して最適化	仮想ディスクへの変更をすぐに確認しますが、保存はあとで行います。

- 6 [次へ] をクリックします。

新しい仮想マシンへのネットワーク アダプタの追加

ネットワーク アダプタを追加すると、仮想マシンのネットワークを設定できます。

開始する前に

ネットワーク アダプタを追加する前に、ESX ホストで、仮想マシンから接続できるポート グループが構成されていることを確認します。

手順

- 1 ネットワーク アダプタ ページで [ネットワーク アダプタの追加] をクリックします。
- 2 プロパティ ページで、[ネットワーク接続] ドロップダウン メニューから、接続する仮想ネットワークを選択します。
- 3 仮想マシンのパワーオン時にネットワークにネットワーク アダプタを接続するには、[パワーオン時に接続] チェックボックスを選択します。

このオプションはデフォルトで選択されています。

- 4 [次へ] をクリックします。

これで、ネットワーク アダプタが構成され、仮想マシンのハードウェアに追加されました。

新しい仮想マシンへの CD または DVD ドライブの追加

仮想 CD/DVD ドライブを物理ドライブに接続できます。また、ホスト ファイル システムにある ISO イメージを使用することもできます。

手順

- ◆ CD/DVD ドライブ ページで、新しい CD または DVD ドライブの物理ドライブまたは ISO イメージを使用するように選択します。

オプション	アクション
物理ドライブを使用する	ホスト システムの物理 CD または DVD ドライブを使用します。
ISO イメージを使用する	ホスト ファイル システムにある ISO イメージ ファイルを新しいデバイスとして使用します。
CD/DVD ドライブを追加しない	CD または DVD ドライブを追加する手順を省略します。

プロパティ ページが表示されます。CD または DVD ドライブを追加しないことを選択した場合は、フロッピー ドライブ ページが表示されます。

物理 CD/DVD ドライブを使用した新しい仮想マシンへの接続

仮想マシンに接続する、ホストの物理 CD または DVD ドライブを選択できます。

仮想 CD または DVD ドライブは特定の SCSI または IDE のデバイス ノードと関連付けられています。デバイスのタイプが、ホストのデバイス タイプと一致している必要はありません。ホストの IDE CD または DVD ドライブを仮想 SCSI CD または DVD ドライブとして構成できます。ホストの SCSI CD または DVD ドライブを仮想 IDE CD または DVD ドライブとして構成できます。そのドライブでディスクに書き込むには、バス タイプを同じにし、両方を IDE にするか、両方を SCSI にします。

仮想 CD/DVD ドライブから起動するには、そのドライブを IDE ドライブとして構成する必要があります。

開始する前に

メディアにアクセスするには、目的のドライブにディスクが存在している必要があります。

手順

- 1 CD/DVD ドライブ ページで [物理ドライブを使用する] を選択してドライブをカスタマイズします。
- 2 プロパティ ページの [ホスト CD/DVD ドライブ] ドロップダウン メニューで、使用する物理 CD または DVD ドライブを選択します。
- 3 仮想マシンのパワーオン時に新しい仮想 CD または DVD ドライブを接続するには、[パワーオン時に接続] チェックボックスを選択します。

このオプションはデフォルトで選択されています。

- 4 仮想ディスクのアダプタ タイプとデバイス ノードを指定するには、[仮想デバイス ノード] をクリックします。
 - a [アダプタ] ドロップダウン メニューで、アダプタのタイプを選択します。
 - b [デバイス] ドロップダウン メニューで、使用可能なデバイス ノードを選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。

新しい CD または DVD ドライブへの ISO イメージの使用

新しい仮想マシンの CD または DVD ドライブに ISO イメージを使用できます。

仮想 CD または DVD ドライブは特定の SCSI または IDE のデバイス ノードと関連付けられています。デバイスのタイプが、ホストのデバイス タイプと一致している必要はありません。ホストの IDE CD または DVD ドライブを仮想 SCSI CD または DVD ドライブとして構成できます。ホストの SCSI CD または DVD ドライブを仮想 IDE CD または DVD ドライブとして構成できます。そのドライブでディスクに書き込むには、バス タイプを同じにし、両方を IDE にするか、両方を SCSI にします。

仮想 CD/DVD ドライブから起動するには、そのドライブを IDE ドライブとして構成する必要があります。

手順

- 1 CD/DVD ドライブ ページで [ISO イメージを使用する] を選択します。
- 2 プロパティ ページで [参照] をクリックして、仮想 CD または DVD ドライブに使用する ISO イメージを指定します。
- 3 仮想マシンのパワーオン時に新しい仮想 CD または DVD ドライブを接続するには、[パワーオン時に接続] チェックボックスを選択します。
このオプションはデフォルトで選択されています。
- 4 仮想ディスクのアダプタ タイプとデバイス ノードを指定するには、[仮想デバイス ノード] をクリックします。
 - a [アダプタ] ドロップダウン メニューで、アダプタのタイプを選択します。
 - b [デバイス] ドロップダウン メニューで、使用可能なデバイス ノードを選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。

新しい仮想マシンへのフロッピー ドライブの追加

仮想マシンにフロッピー ドライブを追加できます。物理フロッピー ドライブ、フロッピー イメージ、またはホストファイルシステムに新規作成したイメージを使用できます。

手順

- ◆ フロッピー ドライブ ページで、新しいフロッピー ドライブの物理ドライブまたはフロッピー イメージを使用するよう選択します。

オプション	アクション
物理ドライブを使用する	ホストの物理フロッピー ドライブを使用します。
フロッピー イメージを使用する	ホストのファイル システムに保存されているフロッピー イメージを使用します。
新規フロッピー イメージを作成する	新しいフロッピー イメージを作成し、新しい仮想ドライブとして使用します。
フロッピー ドライブを追加しない	フロッピー ドライブを追加する手順を省略します。

新しいフロッピー ドライブのプロパティ ページが表示されます。フロッピー ドライブを追加しないことを選択した場合は、USB コントローラ ページが表示されます。

物理フロッピー ドライブを使用した新しい仮想マシンへの接続

物理フロッピー ドライブを新しい仮想マシンに接続できます。

開始する前に

メディアにアクセスするには、目的のドライブにフロッピー ディスクが存在している必要があります。

手順

- 1 フロッピー ドライブ ページで [物理ドライブを使用する] を選択してドライブをカスタマイズします。
- 2 プロパティ ページで、[ホストのフロッピー ドライブ] ドロップダウン メニューから使用可能なフロッピー ドライブを選択します。
- 3 仮想マシンのパワーオン時に新しい仮想フロッピー ドライブを接続するには、[パワーオン時に接続] チェック ボックスを選択します。
このオプションはデフォルトで選択されています。
- 4 [次へ] をクリックします。

新しいフロッピー ドライブのフロッピー イメージの使用

新しいゲスト OS から、ホスト ファイル システムにある既存のフロッピー ドライブ イメージへのアクセスを設定できます。

手順

- 1 フロッピー ドライブ ページで [フロッピー イメージを使用する] を選択する必要があります。
- 2 プロパティ ページで [参照] をクリックしてフロッピー イメージ ファイルを指定します。
- 3 仮想マシンのパワーオン時にフロッピー ドライブ イメージをマウントするには、[パワーオン時に接続] チェック ボックスを選択します。
このオプションはデフォルトで選択されています。
- 4 [次へ] をクリックします。

ゲスト OS をはじめて起動するときにフロッピー ドライブ イメージがマウントされます。

仮想フロッピー ドライブ用の新しいフロッピー イメージの作成

フロッピー ドライブに使用する新しいフロッピー イメージを作成できます。

手順

- 1 フロッピー ドライブ ページで [新規フロッピー イメージを作成する] を選択する必要があります。
- 2 プロパティ ページで [参照] をクリックし、新しいフロッピー ドライブ イメージの場所を指定します。
- 3 仮想マシンのパワーオン時に新しい仮想フロッピー ドライブを接続するには、[パワーオン時に接続] チェック ボックスを選択します。
このオプションはデフォルトで選択されています。
- 4 [次へ] をクリックします。

ゲスト OS をはじめて起動するときにフロッピー ドライブ イメージがマウントされます。

新しい仮想マシンへの USB コントローラの追加

仮想マシンに USB コントローラを追加できます。ただし、仮想マシン内の USB デバイスを接続して使用することはできません。

手順

- ◆ USB コントローラ ページで、仮想マシンに USB コントローラを追加するかどうかを選択します。

オプション	アクション
USB コントローラを追加する	仮想マシンのハードウェア構成に USB コントローラを追加します。
USB コントローラを追加しない	USB コントローラを追加する手順を省略します。

新しい仮想マシンのハードウェア構成の確認

仮想マシンの作成を完了する前に、ハードウェア構成を確認できるほか、仮想マシンにハードウェアを追加することもできます。

手順

- 1 終了準備の完了ページで、ハードウェア構成を確認します。
- 2 ハードウェアを追加するには、[ハードウェアの追加] をクリックし、追加するハードウェア デバイスのタイプを選択します。

オプション	説明
ハード ディスク	ハード ディスクを追加します。
ネットワーク アダプタ	ネットワーク アダプタを追加します。
CD/DVD ドライブ	CD/DVD ドライブを追加します。
フロッピー ドライブ	フロッピー ドライブを追加します。
シリアルポート	シリアル ポートを追加します。
パラレル ポート	パラレル ポートを追加します。
バススルー SCSI デバイス	SCSI デバイスを追加します。
USB コントローラ	すでに USB コントローラが追加されている場合は、使用できません。

- 3 ウィザードの完了後に仮想マシンをパワーオンするには、[新しい仮想マシンを今すぐパワーオンする] チェックボックスを選択します。
- 4 表示されているハードウェア コンポーネントで仮想マシンを作成するには、[終了] をクリックします。

新しい仮想マシンが ESX ホストにある仮想マシンのリストに追加されます。

ゲスト OS のインストール

新しい仮想マシンは、ハード ディスクが空の物理コンピュータに似ています。仮想マシンを使用する前に、仮想ディスクをパーティショニングしてフォーマットし、オペレーティング システムをインストールする必要があります。オペレーティング システムのインストール プログラムによって、パーティショニングおよびフォーマットの手順が実行される場合があります。

重要 32 ビットのゲスト OS のタイプを選択したあと、64 ビットのオペレーティング システムをインストールしないでください。

ホスト構成によっては、仮想マシンをインストール CD から起動できない場合があります。この場合、インストール CD から ISO イメージを作成し、その ISO イメージからインストールできます。

PXE サーバを使用してネットワーク接続でゲスト OS をインストールする場合、オペレーティングシステムのインストールメディアは必要ありません。仮想マシンをパワーオンしたときに PXE サーバが検出されます。

特定のゲスト OS については、『ゲスト OS インストール ガイド』を参照してください。

開始する前に

始める前に、仮想マシンに CD または DVD ドライブを追加する必要があります。CD または DVD ドライブは、ゲスト OS のインストール CD または ISO イメージを使用する必要があります。

オペレーティングシステムを置き換える場合は、[概要] タブのコマンドセクションで [仮想マシンの構成] をクリックして、仮想マシンのゲスト OS を変更します。

手順

- 1 vSphere Web Access にログインします。
- 2 インベントリ パネルで、仮想マシンを選択します。
- 3 [パワーオン] をクリックして仮想マシンをパワーオンします。
- 4 [コンソール] タブをクリックし、VMware Remote Console を使用してゲスト OS のインストールを完了します。
- 5 (オプション) 仮想マシンの BIOS でディスク デバイスの起動順序を変更するには、仮想マシンの起動中にプロンプトが表示されたときに [F2] を押します。
- 6 オペレーティングシステム ベンダーから提供された指示に従います。
- 7 (オプション) 複数のファイルにわたる ISO イメージを使用する場合は、次の CD を挿入するよう求められます。
 - a [概要] タブをクリックします。
 - b ハードウェア セクションで、CD/DVD ドライブのアイコンをクリックし、[編集] を選択します。
 - c 接続セクションで [参照] をクリックして ISO イメージ ファイルを指定し、[OK] をクリックします。
 - d [コンソール] タブをクリックして VMware Remote Console に戻ります。
 - e ゲスト OS で [OK] をクリックするか、プロンプトに回答し、インストールを続行します。
 - f さらに追加するファイルにも、同じ手順を繰り返します。

次に進む前に

[「ゲスト OS への VMware Tools のインストール \(P. 28\)」](#) の説明に従って VMware Tools をインストールします。

VMware Remote Console について

VMware Remote Console を使用すると、仮想マシンのマウス、キーボード、および画面にリモート接続できます。これによって、ゲスト OS がローカル コンピュータにインストールされているかのようにそれらを使用できます。

VMware Remote Console は、Microsoft Internet Explorer および Mozilla Firefox で使用可能なブラウザ プラグインです。

VMware Remote Console は別ウィンドウで開きます。ブラウザを閉じて VMware Remote Console の実行を維持できます。同時に複数のリモート コンソールを開き、複数の仮想マシンのオペレーティングシステムを操作できます。

Mozilla Firefox 用の VMware Remote Console プラグインのインストール

VMware Remote Console プラグインを使用すると、Firefox ブラウザを使用して仮想マシンを操作できます。

開始する前に

プラグインをインストールするには、接続先の vCenter Server または ESX ホストで vSphere Web Access を実行しておく必要があります。

VMware Remote Console プラグインをインストールするには、システム管理者権限を保持している必要があります。インストール中に表示されるポップアップウィンドウが Mozilla Firefox で許可されていることを確認します。

手順

- 1 Firefox で、vSphere Web Access の次の URL を入力します。
https://<<vmwarehost.yourdomain.com>>/ui
- 2 接続先のホストのユーザー名とパスワードを使用して、vSphere Web Access にログインします。
- 3 インベントリ パネルで、仮想マシンを選択します。
- 4 [コンソール] タブをクリックします。
プラグインがまだインストールされていない場合は、警告メッセージが表示されます。
- 5 [プラグインのインストール] をクリックします。
[ソフトウェアのインストール] ウィンドウが表示されます。
- 6 [ソフトウェアのインストール] ウィンドウで、[今すぐインストール] をクリックします。
- 7 Firefox を再起動してインストールを完了します。

次に進む前に

Mozilla Firefox を使用して、VMware Remote Console を開き、仮想マシンのゲスト OS を使用できます。

Internet Explorer 用の VMware Remote Console プラグインのインストール

Internet Explorer 用の VMware Remote Console プラグインをインストールし、ブラウザを使用して仮想マシンを操作できます。

開始する前に

プラグインをインストールするには、接続先の vCenter Server または ESX ホストで vSphere Web Access を実行しておく必要があります。

VMware Remote Console プラグインをインストールするには、システム管理者権限を保持している必要があります。

手順

- 1 Internet Explorer で、vSphere Web Access の次の URL を入力します。
https://<<vmwarehost.yourdomain.com>>/ui
 - 2 接続先のホストのユーザー名とパスワードを使用して、vSphere Web Access にログインします。
 - 3 インベントリ パネルで、仮想マシンを選択します。
 - 4 [コンソール] タブをクリックします。
プラグインがまだインストールされていない場合は、警告メッセージが表示されます。
 - 5 警告メッセージで、[プラグインのインストール] をクリックします。
[ファイルのダウンロード - セキュリティ警告] ウィンドウが表示され、ファイルを実行するか、保存するかを確認するメッセージが表示されます。
 - 6 [実行] をクリックし、[Internet Explorer - セキュリティ警告] ウィンドウでもう一度 [実行する] をクリックします。
 - 7 ようこそページで [インストール] をクリックします。
 - 8 インストールが完了したら、[終了] をクリックします。
- これで、Internet Explorer 用の VMware Remote Console プラグインがインストールされました。

次に進む前に

Internet Explorer を使用して、VMware Remote Console を開き、仮想マシンのゲスト OS を使用できます。

VMware Remote Console の起動

VMware Remote Console を使用して、仮想マシンのゲスト OS を操作できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、パワーオン状態の仮想マシンを選択します。
- 2 [コンソール] タブをクリックします。
- 3 VMware Remote Console を開くには、黒い領域内をクリックします。

VMware Remote Console が開きます。

次に進む前に

これで、[VMware Remote Console] ウィンドウ内をクリックして、選択した仮想マシンのゲスト OS を操作できます。

VMware Remote Console の表示設定

画面のサイズやツールバー オプションなど、VMware Remote Console の表示内容を設定できます。

手順

- ◆ 次のいずれかのオプションを選択して、VMware Remote Console の表示内容をカスタマイズします。

オプション	操作
フルスクリーンモードでの仮想マシンの実行	[VMware Remote Console] ウィンドウで、[最大化] をクリックします。
VMware Remote Console のツールバーの非表示	VMware Remote Console のツールバーで、プッシュピンをクリックして横に倒します。
VMware Remote Console のツールバーを常に表示	画面の最上部にポインタを移動し、ツールバーの端の部分にあるプッシュピンをクリックして斜めに倒します。
別ウィンドウで仮想マシンを実行	VMware Remote Console がフルスクリーンモードのときに、[Ctrl] + [Alt] を押すと、再度別ウィンドウに切り替わります。

VMware Remote Console でのクライアント デバイスの使用

vSphere Web Access で開いている仮想マシン上の物理ローカル ドライブを使用できます。また、ローカルのシステム上にある ISO イメージおよびフロッピー イメージも使用できます。

複数の仮想マシンが同時に 1 つのドライブを使用できます。物理ドライブからディスクを取り出すには、まず、そのドライブを使用しているすべての仮想マシンからドライブを切断する必要があります。

仮想マシンへのクライアント デバイスの接続

VMware Remote Console を使用して、仮想マシンからローカルの CD/DVD ドライブおよびフロッピー ドライブにアクセスできます。

開始する前に

Linux では、接続先のデバイスがマウントされていないことと使用中でないことを確認してください。

手順

- 1 [VMware Remote Console] ウィンドウで、[デバイス] - [<<デバイス名>>] - [<<デバイスへのパス>>] に接続] を選択します。
- 2 クライアント デバイスにディスク メディアを挿入し、ゲスト OS からアクセスします。

ローカルの CD/DVD メディアが仮想マシンに接続されます。

仮想マシンへのクライアント デバイスのイメージ ファイルの接続

VMware Remote Console を使用して、仮想マシンのローカルのイメージ ドライブ ファイル (.iso または .flp) にアクセスできます。

開始する前に

Linux では、使用するイメージのデバイス ファイルがマウントされていないことと使用中でないことを確認してください。

手順

- 1 VMware Remote Console ウィンドウで、[デバイス] - [<<デバイス名>>] - [ディスク イメージ ファイルに接続] を選択します。
- 2 イメージの選択ダイアログ ボックスで、仮想マシンに接続する .iso または .flp ファイルを参照します。

VMware Remote Console の終了

ゲスト OS の操作を終了する場合、VMware Remote Console を閉じると仮想マシンから切断できます。

VMware Remote Console を終了しても、仮想マシンはパワーオンされたままになります。

手順

- ◆ [VMware Remote Console] ウィンドウで [VMware Remote Console] - [切断および終了] を選択します。

VMware Remote Console を使用した仮想マシンのトラブルシューティング

VMware Remote Console を使用して仮想マシンのエラーや、応答しないゲスト OS のトラブルシューティングが可能です。

手順

- ◆ 特定の仮想マシンの問題をトラブルシューティングするオプションを選択します。

オプション	アクション
仮想マシンのメッセージ ログの表示	[VMware Remote Console] ウィンドウで [VMware Remote Console] - [トラブルシューティング] - [メッセージ ログ] を選択します。
ゲスト OS への [Ctrl] + [Alt] + [Delete] の送信	[VMware Remote Console] ウィンドウで [VMware Remote Console] - [トラブルシューティング] - [Ctrl + Alt + Delete の送信] を選択します。
仮想マシンのリセット	[VMware Remote Console] ウィンドウで [VMware Remote Console] - [トラブルシューティング] - [リセット] を選択します。
仮想マシンのサスペンドおよび終了	[VMware Remote Console] ウィンドウで [VMware Remote Console] - [トラブルシューティング] - [サスペンドおよび終了] を選択します。
仮想マシンのパワーオフおよび終了	[VMware Remote Console] ウィンドウで [VMware Remote Console] - [トラブルシューティング] - [パワーオフおよび終了] を選択します。

VMware Remote Console のキーボード ショートカット

VMware Remote Console には複数のキーボード ショートカットがあり、それらは仮想マシンのゲスト OS を操作するときに使用できます。

表 3-1 に利用可能なキーボード ショートカットを示します。

表 3-1. VMware Remote Console のキーボードショートカット

キーボードショートカット	アクション
[Ctrl] + [Alt]	<ul style="list-style-type: none"> ■ マウスとキーボードの入力を仮想マシンからローカル マシンに転送 ■ フルスクリーン モードから、別ウィンドウでの VMware Remote Console の実行に切り替え
[Ctrl] + [G]	マウスとキーボードの入力をローカル マシンから仮想マシンに転送
[Ctrl] + [Alt] + [Insert]	仮想マシンに [Ctrl] + [Alt] + [Delete] シグナルを送信
[Ctrl] + [Alt] + [Enter]	フルスクリーン モードと、別ウィンドウでの VMware Remote Console の実行とで切り替え

VMware Tools の管理

VMware Tools は、ゲスト OS のパフォーマンスを向上し、仮想マシンの管理を強化する一連のユーティリティです。最良の結果を得るには、VMware Tools はすべてのゲスト OS にインストールします。

ゲスト OS への VMware Tools のインストール

ゲスト OS をインストールしたら、VMware Tools をインストールして、仮想マシンのパフォーマンスと操作性を強化できます。

手順

- 1 仮想マシンをパワーオンします。
- 2 仮想マシンの [概要] タブのステータス セクションで、[VMware Tools のインストール] を選択します。
- 3 (オプション) 仮想マシンのパワーオン時に常に VMware Tools のアップデートを自動的に確認するには、[VMware Tools のインストール] ウィンドウの [VMware Tools を自動的にアップグレード] チェック ボックスを選択します。
- 4 [インストール] をクリックして[インストール] ウィザードを起動します。

vSphere Web Access によって、仮想マシンの CD ドライブが、ESX ホスト マシンまたは vCenter Server にあるインストールファイルに接続されます。ゲスト OS で自動実行が有効になっている場合は (Windows オペレーティングシステムのデフォルト設定)、VMware Tools をインストールするかどうかを尋ねるダイアログ ボックスが表示されます。

- 5 [コンソール] タブをクリックし、ゲスト OS を使用してインストールを完了します。
- 6 プロンプトが表示されたらゲスト OS を再起動します。

VMware Tools がインストールされました。

VMware Tools のアップグレード

ESX または vCenter Server を新しいバージョンにアップグレードした場合、仮想マシンの VMware Tools のバージョンをアップグレードできます。

手順

- 1 仮想マシンの [概要] タブのステータス セクションで、[VMware Tools のアップグレード] を選択します。
- 2 [VMware Tools のアップグレード] ウィンドウでオプションを選択し、[アップグレード] をクリックします。

オプション	アクション
自動 VMware Tools アップグレード	ユーザーの操作なしで VMware Tools を自動的にアップグレードします。
対話形式の VMware Tools アップグレード	インストールする VMware Tools のコンポーネントを選択できます。

- 自動アップグレードを選択した場合は、インストール プログラムによって VMware Tools がインストールされます。このとき、ゲスト OS が再起動される場合があります。
 - 対話形式のアップグレードを選択した場合は、インストール プログラムによって VMware Tools のイメージ ファイルが、ゲスト OS の仮想 CD/DVD ドライブにマウントされます。
- 3 (オプション) [対話形式の Tools アップグレード] を選択した場合は、ゲスト OS で CD/DVD ドライブを開き、VMware Tools のインストール手順に従ってアップグレード プロセスを完了します。

Windows での VMware Tools の設定の変更

Windows で VMware Tools の設定を変更するには、VMware Tools コントロール パネルを実行します。

開始する前に

Windows Vista で VMware Tools コントロール パネルを開くには、システム管理者権限としてログインする必要があります。

手順

- 1 ゲスト OS で、[スタート] - [設定] - [コントロール パネル] を選択します。
- 2 コントロール パネルで [VMware Tools] アイコンをダブルクリックします。
- 3 VMware Tools のプロパティを変更するには、このダイアログ ボックス内のタブを使用します。

Linux、Solaris、または FreeBSD オペレーティング システムでの VMware Tools の設定の変更

VMware Tools のプロパティを変更するには、コマンド ラインで VMware Tools コマンドを実行します。

開始する前に

VMware Tools を実行するには、オペレーティング システムのグラフィカル インターフェイス モードを使用する必要があります。

仮想ディスクを圧縮したり、VMware Tools のスクリプトを変更したりするには、root として VMware Tools を実行する必要があります。

手順

- 1 ゲスト OS を起動し、グラフィカル環境を起動します。
- 2 コマンドラインを開き、VMware Tools バックグラウンド アプリケーションを起動します。

vmware-toolbox &

VMware Tools ダイアログ ボックスが表示されます。

- 3 VMware Tools のプロパティを変更するには、ダイアログ ボックス内のタブを使用します。

仮想マシンのタスク、アラーム、およびイベント

すべての仮想マシンに、イベント、タスク、およびアラームのログ ファイルがあります。これらのログで、リソース不足が原因で発生する可能性がある障害や不具合に関する情報を確認できます。

仮想マシンのイベントには、ESX のクエリやエラーのほか、仮想マシンのパワーオフやパワーオンなどのイベントがあります。イベントは、仮想マシンの耐用年数中に発生したことを通知します。

仮想マシンのアラームは、仮想マシンで特定のイベントが発生したときに起動される通知です。仮想マシンのアラームは、たとえば CPU の使用量が指定の使用量を超えたときに起動します。アラームの重要度に応じて、仮想マシンを別のホストに移動するか、現在のホストにハードウェアを追加するかを決定できます。

タスクは、仮想マシンのパワーオンなど、ユーザーが手動で実行するか、特定の時刻に実行するようにスケジュールを設定する高レベルのアクションです。スケジュール設定タスクの表示のみが可能です。vSphere Web Access でタスクをスケジュール設定することはできません。

仮想マシンのアラームの表示

仮想マシンで発生したアラームのリストを表示できます。アラームの重要度に応じて、リソース不足またはシステムの過負荷を防ぐための対策をとることができます。

[アラーム] タブは、vSphere Web Access を使用して vCenter Server に接続する場合のみ利用できます。

手順

- 1 イベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 仮想マシン パネルから [アラーム] タブを選択します。
アラームのリストが新しい順で表示されます。
- 3 (オプション) アラームのソート順を変更します。

オプション	アクション
トリガー済み	時間順でアラームをソートします。
ステータス	ステータスでアラームをソートします。
オブジェクト	参照先オブジェクト名のアルファベット順でアラームをソートします。
名前	アラーム名のアルファベット順でアラームをソートします。
リストでアラーム名をダブルクリック	特定のアラームに関する詳細を表示します。

仮想マシンに割り当てられているタスクの表示

仮想マシンに割り当てられているタスクを表示できます。

vSphere Web Access を使用してタスクを割り当てることはできません。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 仮想マシン パネルから [タスク] タブを選択します。
タスクのリストが新しい順で表示されます。
- 3 (オプション) タスクのソート順を変更します。

オプション	アクション
トリガー済み	時間順でタスクをソートします。
ステータス	ステータスのアルファベット順でタスクをソートします。
オブジェクト	割り当て先オブジェクト名のアルファベット順でタスクをソートします。
トリガー元	タスクをスケジュール設定したユーザー名のアルファベット順でタスクをソートします。
リストでタスク名をダブルクリック	特定のタスクに関する詳細を表示します。

仮想マシンのイベントの表示

イベントログには、イベントの時刻および重要度とイベントに関する簡単な説明が含まれます。イベントログ内のデータは、仮想マシンのディレクトリに保存されているログ ファイルから取得されています。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 仮想マシン パネルから [イベント] タブを選択します。
仮想マシンのイベントのリストが新しい順で表示されます。
- 3 (オプション) イベントのソート順を変更します。

オプション	アクション
トリガー済み	時間順でイベントをソートします。
重要度	重要度のステータスでイベントをソートします。
説明	説明のアルファベット順でイベントをソートします。
リストでイベント名をダブルクリック	特定のイベントに関する詳細を表示します。

仮想マシンのショートカットの作成

仮想マシンのショートカットを作成できます。ショートカットを使用すると、ユーザーは Web ブラウザからゲスト OS を直接操作できるようになります。ほかの仮想マシンを参照する権限を付与したり、仮想マシンの 1 つのワークスペースへのアクセスのみに制限したりするようショートカットを構成することもできます。

vSphere Web Access を使用して Web およびデスクトップ ショートカットを作成できます。

Web ショートカットの作成

システム管理者は、カスタマイズした Web ショートカットを作成し、ほかのユーザーと共有できます。[コンソール] タブだけの表示、ワークスペースへのアクセスの有効化または無効化、仮想マシンのインベントリへのアクセスの有効化または無効化を行うショートカットを作成できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、Web ショートカットを生成する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [仮想マシンのショートカットの生成] をクリックします。

- 3 [Web ショートカットのカスタマイズ] をクリックし、そのショートカットのオプションを選択します。

オプション	アクション
ワークスペース表示をコンソールに制限する	仮想マシンの [コンソール] タブへのアクセスを提供し、イベント ログなどその他の詳細を非表示にします。
表示を 1 つの仮想マシンに制限する	インベントリでほかの仮想マシンへの移動を無効にします。
この URL を難読化する	判読が困難な URL を生成します。

- 4 今後使用するために Web ショートカットをコピーします。
- 5 [OK] をクリックします。

次に進む前に

Web ショートカットをテストするには、別のブラウザまたはコンピュータを使用します。アクティブな vSphere Web Access ブラウザ セッションを使用して Web ショートカットをテストする場合は、そのブラウザのすべてのインスタンスを一度必ず閉じてから、vSphere Web Access に再度ログインすると、ユーザー インターフェイスのすべての機能を使用できるようになります。

VMware Remote Console のデスクトップ ショートカットの作成

VMware Remote Console プラグインをインストールしたら、VMware Remote Console を起動して仮想マシンに接続するためのデスクトップ ショートカットを作成できます。

注意 Internet Explorer を使用している場合は、VMware Remote Console をインストールしてから VMware Remote Console のデスクトップ ショートカットを作成するまでの間に Web ブラウザを再起動する必要があります。Internet Explorer を再起動しない場合、JavaScript エラーを受け取り、ショートカットが作成されません。

開始する前に

使用しているブラウザ用の VMware Remote Console プラグインをインストールする必要があります。

手順

- 1 インベントリ パネルで、デスクトップ ショートカットを生成する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [仮想マシンのショートカットの生成] をクリックします。
- 3 デスクトップ ショートカット セクションで [<<仮想マシン>>] にデスクトップ ショートカットをインストールするをクリックします。
- 4 プロンプトが表示されたら、ショートカットを作成することを確認します。
ショートカットがデスクトップに作成されます。
- 5 [OK] をクリックします。

仮想マシンへのショートカットがデスクトップに表示されます。

次に進む前に

デスクトップ ショートカットを使用して仮想マシンに迅速にアクセスできます。

仮想マシンのハードウェアバージョンのアップグレード

ESX の旧バージョンまたは別の VMware 製品を使用して仮想マシンを作成した場合は、仮想マシンのバージョンをアップグレードできます。

手順

- 1 ESX にログインします。
- 2 インベントリで、仮想マシンを選択し、パワーオフします。
- 3 ワークスペースのステータス セクションで [仮想マシンをアップグレード] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックして、仮想マシンをアップグレードすることを確定します。

仮想マシンのバージョンをアップデートしたら、新しいバージョンでサポートされている機能を使用するように仮想マシンを設定できます。





仮想マシンの電源状態の変更

供与されている権限によっては、vSphere Web Access を使用して仮想マシンの電源状態を変更できます。

仮想マシンに VMware Tools をインストールした場合、[リセット]、[パワーオフ]、および [サスペンド] の各ボタンを使用して、ゲスト OS を再起動、シャットダウン、およびサスペンドできます。

手順

- ◆ 仮想マシンの電源状態を変更するには、ツールバーで該当する電源状態のボタンをクリックします。

オプション	アクション
	仮想マシンをパワーオフします。
	仮想マシンをサスペンドします。
	仮想マシンをパワーオンします。
	仮想マシンをリセットします。

仮想マシンの削除

仮想マシンをインベントリから削除したり、仮想マシンを完全に削除したりすることができます。

インベントリから仮想マシンを削除しても、仮想マシンのファイルがハード ディスクから削除されることはありません。

手順

- 1 インベントリ パネルで、仮想マシンを選択し、パワーオフします。
- 2 [仮想マシン] - [仮想マシンの削除] を選択し、インベントリから仮想マシンだけを削除します。
- 3 [この仮想マシンのファイルをディスクから削除する] を選択して、仮想マシンのファイルをすべてディスクから削除します。
- 4 [OK] をクリックします。

仮想マシンがインベントリから削除されます。

仮想マシンのオプションとリソースの構成

vSphere Web Access を使用して、仮想マシンのハードウェア構成、電源オプション、および仮想マシンの詳細設定を構成できます。

仮想マシンのオプションおよび設定へのアクセスは、仮想マシンの構成ファイルに対するユーザー権限によって異なります。権限に応じて、仮想マシンの参照、操作、構成、または管理が可能かどうかが決まります。

権限と仮想マシンの状態によっては、一部のオプションを構成できない場合があります。

権限は、vSphere Client で構成します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [仮想マシンのハードウェア構成の変更 \(P. 35\)](#)
- [仮想マシンからのハードウェア コンポーネントの削除 \(P. 40\)](#)
- [仮想マシンの設定およびオプションの変更 \(P. 43\)](#)

仮想マシンのハードウェア構成の変更

仮想マシンの各ハードウェア コンポーネントを変更できます。

構成するには、仮想マシンをパワーオフしておく必要がある場合があります。

注意 仮想マシンの構成ファイルは、直接編集しないでください。代わりに、仮想マシンの構成ダイアログボックスの [詳細] タブを使用します。

仮想マシンのプロセッサ数の変更

仮想マシンが使用する仮想プロセッサの数を変更できます。



注意 ゲスト OS のインストールのあとにプロセッサ数を変更すると、仮想マシンが不安定になることがあります。

手順

- 1 ゲスト OS をシャットダウンして、変更する仮想マシンをパワーオフします。
- 2 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 3 [概要] タブにあるハードウェア セクションの [プロセッサ] ドロップダウン メニューで、[編集] を選択します。
- 4 [プロセッサ数] ドロップダウン メニューで、プロセッサの数を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

仮想マシンのメモリ割り当ての変更

仮想マシンごとにメモリの割り当てを変更できます。

手順

- 1 ゲスト OS をシャットダウンして、変更する仮想マシンをパワーオフします。
- 2 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 3 [概要] タブにあるハードウェアリストの [メモリ] ドロップダウン メニューで、[編集] を選択します。
- 4 仮想マシンが確実に起動するようにするためには、少なくとも、推奨の最小メモリを割り当ててください。
- 5 [OK] をクリックします。

CD/DVD ドライブの構成によるホストの CD/DVD メディアの使用

ホストシステムの CD/DVD ドライブに接続するように仮想 CD/DVD ドライブを構成できます。

手順

- 1 [概要] タブのハードウェア セクションで、ドロップダウン メニューから CD/DVD ドライブを選択し、[編集] をクリックします。
- 2 [CD/DVD ドライブ] ウィンドウで、[ホスト メディア] を選択します。
- 3 デバイスのステータス セクションで必要な変更を加え、CD/DVD ドライブのステータスを変更します。
- 4 接続セクションで [物理ドライブ] を選択し、物理ドライブに変更を加えます。
 - a ドロップダウン メニューから使用する光学式ドライブを選択します。
 - b 物理ドライブを使用する場合、[ATAPI エミュレーションを使用する] または [ドライブに直接アクセスする] を選択します。

CD/DVD ドライブにアクセスできない場合は、ATAPI エミュレーションを使用します。エミュレーション モードは、データ ディスクがある場合にだけ機能します。
- 5 接続セクションで、[ISO イメージ] を選択し、[参照] をクリックして ISO イメージを使用する **.iso** ファイルを指定します。
- 6 仮想デバイス ノード セクションでアダプタのタイプと、アダプタのタイプの変更に適したデバイスを選択します。
このオプションは、仮想マシンがパワーオフ状態のときのみ使用可能です。
- 7 [OK] をクリックします。

CD/DVD ドライブの構成によるクライアントの CD/DVD メディアの使用

クライアントシステムの CD/DVD デバイスに接続するように仮想 CD/DVD ドライブを構成できます。

手順

- 1 [概要] タブのハードウェア セクションで、ドロップダウン メニューから CD/DVD ドライブを選択し、[編集] をクリックします。
- 2 [CD/DVD ドライブ] ウィンドウで、[クライアント メディア] を選択します。
- 3 仮想デバイス ノード セクションでアダプタのタイプと、アダプタのタイプの変更に適したデバイスを選択します。
アダプタを変更する仮想マシンをパワーオフする必要があります。
- 4 [OK] をクリックします。

フロッピー ドライブの構成によるホストのフロッピー メディアの使用

ホストシステムの物理フロッピー ドライブに接続するように仮想フロッピー ドライブを構成できます。

手順

- 1 [概要] タブのハードウェア セクションで、ドロップダウン メニューからフロッピー ドライブを選択し、[編集] をクリックします。
- 2 [フロッピー ドライブ] ウィンドウで、[ホスト メディア] を選択します。
- 3 フロッピー ドライブのステータスを変更するには、デバイスのステータス セクションで必要な変更を加えます。
- 4 接続設定を変更するには、接続セクションでオプションを選択します。

オプション	説明
物理ドライブ	ホストシステムに取り付けられている物理フロッピー ドライブを選択できるようにします。仮想マシンがパワーオフされている場合のみ使用できます。
フロッピー イメージ	ホストにある既存のフロッピー イメージを使用できるようにします。
新しいフロッピー イメージ	ホストにフロッピー イメージを作成できるようにします。

- 5 [OK] をクリックします。

フロッピー ドライブの構成によるクライアントのフロッピー メディアの使用

クライアントシステムのフロッピー デバイスに接続するように仮想フロッピー ドライブを構成できます。

手順

- 1 [概要] タブのハードウェア セクションで、ドロップダウン メニューからフロッピー ドライブを選択し、[編集] をクリックします。
- 2 [フロッピー ドライブ] ウィンドウで、[クライアント メディア] を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

ハード ディスクの変更

仮想マシンの既存のハード ディスクの一部の設定を変更したり、仮想マシンからハード ディスクを削除したりできます。ファイルの割り当てオプションを表示することも可能ですが、それらを変更することはできません。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンします。
- 3 [概要] タブのハードウェア セクションで、変更するハード ディスクをクリックし、[編集] を選択します。
- 4 拡張可能なディスクの容量を増やすには、[容量を増やす] をクリックし、[増分] または [新規容量] オプションに新しい値を入力します。

ディスクのスナップショットがある場合は、それを削除してディスクの容量を変更する必要があります。

注意 SCSI ディスクの容量の変更だけが可能です。

- 5 仮想デバイス ノード セクションでアダプタのタイプと、アダプタのタイプの変更に適したデバイスを選択します。

- 6 独立モードでディスクを実行するには、[ディスク モード] をクリックして [独立モード] を選択し、適切なオプションをクリックします。

オプション	アクション
通常	通常モードのディスクは、物理コンピュータ上の従来のディスクと同様に動作します。通常モードのディスクに書き込まれたすべてのデータは、永続的にこのディスクに書き込まれます。
読み取り専用	読み取り専用モードのディスクへの変更は、仮想マシンをパワーオフまたはリセットしたときに破棄されます。読み取り専用モードでは、仮想マシンを再起動するときに仮想ディスクが常に同じ状態になります。ディスクへの変更は REDO ログ ファイルに書き込まれ、このファイルから読み取られます。REDO ログ ファイルはパワーオフまたはリセット時に削除されます。

- 7 仮想ディスクの書き込みキャッシュのポリシーを変更するには、[ポリシー] をクリックし、適切なオプションを選択します。

オプション	アクション
安全を優先して最適化	仮想ディスクへの変更をすべて保存してから、システムに通知します。
パフォーマンスを優先して最適化	仮想ディスクへの変更をすぐに確認しますが、保存はあとで行います。

- 8 [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

SCSI デバイスの変更

SCSI 接続の設定と、特定の SCSI デバイス用に使用するデバイス タイプおよびデバイス ノードを変更できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのハードウェア セクションで、変更する SCSI デバイスを選択し、[編集] をクリックします。
- 3 [接続] ドロップダウン メニューで、物理デバイスを指定します。
- 4 仮想デバイス ノード セクションで、アダプタのタイプとデバイス ノードを指定します。
- 5 [OK] をクリックします。

これで、SCSI デバイスが再構成されました。

SCSI コントローラの変更

仮想マシンに接続されている SCSI コントローラの設定を編集できます。

使用可能な SCSI コントローラのデバイスのタイプは、BusLogic 平行 インターフェイスまたは LSI Logic 平行 インターフェイスです。

ハードウェア バージョン 7.0 の仮想マシンの場合は、LSI SAS シリアル接続ストレージ インターフェイスを選択することもできます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、仮想マシンを選択し、パワーオフします。
- 2 [概要] タブのハードウェア セクションで、SCSI コントローラをクリックし、[編集] を選択します。
- 3 [デバイス タイプの変更] をクリックして、SCSI コントローラのデバイス タイプを変更します。
- 4 [OK] をクリックします。

SCSI コントローラが再構成されます。

ネットワーク アダプタの変更

ケーブルを使用して物理ネットワークアダプタをコンセントに接続するのと同様に、仮想ネットワーク アダプタをラベルのついたネットワークに接続できます。アダプタ用にラベルの付いたネットワークを選択することによって、特定のネットワークのリソースにゲスト OS をアクセスさせることができます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのハードウェア セクションで、変更するネットワーク アダプタを選択し、[編集] をクリックします。
- 3 仮想マシンのパワーオン時にそのネットワークに接続するには、[パワーオン時に接続] を選択します。
- 4 ネットワーク接続セクションで、使用する仮想ネットワークを選択します。
- 5 MAC アドレス セクションで、マシンの MAC アドレスを生成する方法を選択します。

オプション	説明
ホストにより生成	ホストが MAC アドレスを生成します。
手動	手動で MAC アドレスを変更できるようにします。

- 6 [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

次に進む前に

ゲスト OS が新しいネットワークで適切な IP アドレスを使用していることを確認してください。ゲストで DHCP を使用している場合は、IP アドレスを解放してから更新してください。IP アドレスが固定の場合は、ゲストが正しい仮想ネットワーク上のアドレスを持っていることを確認してください。

パラレル ポートの変更

既存のパラレル ポートの構成を編集して、テストを実行したり、ホストシステムに接続された物理デバイスを使用したりすることができます。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンして、仮想マシンをパワーオフします。
- 3 [概要] タブのハードウェア セクションで、変更するパラレル ポートを選択し、[編集] をクリックします。
- 4 仮想マシンのパワーオン時にパラレル ポートを接続するには、[パワーオン時に接続] チェック ボックスを選択します。
- 5 接続セクションで、テストに物理パラレルポートを使用するか、パラレルポートのデータを使用するかを選択できます。

オプション	操作
物理	ドロップダウン メニューから、使用可能なホストのパラレル ポートを選択します。
ファイル	[参照] を選択してクリックし、新しいファイルにパラレル ポートのデータを保存するか、既存の出力ファイルを指定します。

- 6 [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

シリアルポートの変更

既存のシリアルポートの構成を変更できます。シリアルポートは、ホストマシンの物理シリアルポートに接続したり、ファイルに出力データを送信したり、名前付きパイプの作成に使用したりするよう構成できます。

手順

- 1 インベントリパネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンして、仮想マシンをパワーオフします。
- 3 [概要] タブのハードウェア セクションで、変更するシリアルポートを選択し、[編集] をクリックします。
- 4 仮想マシンのパワーオン時にシリアルポートに接続するには、[パワーオン時に接続] を選択します。
- 5 使用するシリアルポートのタイプを選択します。

オプション	説明
物理	ホストのシリアルポートを使用します。
ファイル	選択された出力ファイルにデータを送信します。
名前付きパイプ	パイプを作成します。 <ol style="list-style-type: none"> a パイプのパスおよびファイルを入力します。 b [近端] ドロップダウンメニューから、オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 遠端の接続から開始するには、[クライアント] を選択。 ■ 接続の終端から開始するには、[サーバ] を選択。 c [遠端] ドロップダウンメニューで、オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 仮想マシンから接続するアプリケーションが、ホスト上の別の仮想マシンにある場合は、[仮想マシン] を選択。 ■ 仮想マシンから接続するアプリケーションが、ホストで直接実行されている場合は、[アプリケーション] を選択。

- 6 [ポーリング時に CPU を放棄] チェックボックスを選択し、ターゲット仮想マシン内のカーネルが、割り込みモードではなくポーリングモードで仮想シリアルポートを使用するようにします。
- 7 [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

仮想マシンからのハードウェアコンポーネントの削除

使用していないハードウェアコンポーネントが仮想マシンにある場合は、それを仮想マシン構成から削除できます。また、別の仮想マシンで物理的に対応するハードウェアを再利用するためにコンポーネントを削除する必要がある場合があります。

仮想マシンからの CD/DVD ドライブの削除

仮想マシンから CD/DVD ドライブを削除できます。

手順

- 1 インベントリパネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンして、仮想マシンをパワーオフします。
- 3 [概要] タブのハードウェア セクションで、削除する CD/DVD ドライブをクリックし、[削除] を選択します。
- 4 確認のダイアログボックスで [はい] をクリックします。

CD/DVD ドライブが仮想マシンのハードウェア構成から削除されます。

仮想マシンからのフロッピー ドライブの削除

ゲスト OS でフロッピー ドライブを使用する必要がない場合、仮想マシンのハードウェア構成からそれを削除できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンして、仮想マシンをパワーオフします。
- 3 [概要] タブのハードウェア セクションで、フロッピー ドライブをクリックし、[削除] を選択します。
- 4 確認のダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

フロッピー ドライブが仮想マシンのハードウェア構成から削除されます。

仮想マシンからのハード ディスクの削除

使用しない仮想ディスクがある場合、仮想マシンのハードウェア構成からそれを削除できます。

開始する前に

IDE ハード ディスクを削除するには、仮想マシンをパワーオフする必要があります。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブの [ハードウェア] セクションで、削除するハード ディスクをクリックしてオプションを 1 つ選択します。

オプション	説明
削除	仮想マシンからハード ディスクを削除します。 ホスト システムの仮想ディスクは保持されます。別の仮想マシンのハード ディスク ファイルを使用できます。
ディスクから削除	仮想マシンからハード ディスクを削除します。ホスト システムから関連付けられているディスク ファイルが削除されます。

- 3 確認のダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。
ハード ディスクが仮想マシンのハードウェア構成から削除されます。

仮想マシンからの SCSI デバイスの削除

仮想マシンから SCSI デバイスを削除できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンして、仮想マシンをパワーオフします。
- 3 [概要] タブのハードウェア セクションで、ドロップダウン メニューから SCSI デバイスを選択し、[削除] をクリックします。
- 4 確認のダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

SCSI デバイスが仮想マシンのハードウェア構成から削除されます。

仮想マシンからのネットワーク アダプタの削除

仮想マシンからネットワーク アダプタを削除できます。

開始する前に

仮想マシンをパワーオフします。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンして、仮想マシンをパワーオフします。
- 3 [概要] タブで、削除するネットワーク アダプタを選択して [削除] をクリックします。
- 4 確認のダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

ネットワーク アダプタが仮想マシンのハードウェア構成から削除されます。

仮想マシンからのパラレル ポートの削除

仮想マシンの構成からパラレル ポートを削除できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンして、仮想マシンをパワーオフします。
- 3 [概要] タブのハードウェア セクションで、削除するパラレル ポートを選択し、[削除] をクリックします。
- 4 確認のダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

パラレル ポートが仮想マシンのハードウェア構成から削除されます。

仮想マシンからのシリアル ポートの削除

仮想マシンからシリアル ポートを削除できます。

開始する前に

仮想マシンをパワーオフします。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンして、仮想マシンをパワーオフします。
- 3 [概要] タブのハードウェア セクションで、シリアル ポートを選択し、[削除] をクリックします。
- 4 確認のダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

シリアル ポートが仮想マシンのハードウェア構成から削除されます。

仮想マシンからの USB コントローラの削除

仮想マシンで USB デバイスを使用しない場合、仮想マシンから USB コントローラを削除できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで仮想マシンを選択します。
- 2 ゲスト OS をシャットダウンして、仮想マシンをパワーオフします。

- 3 [概要] タブのハードウェア セクションで、USB コントローラを選択し、[削除] をクリックします。
 - 4 確認のダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。
- USB コントローラが仮想マシンのハードウェア構成から削除されます。

仮想マシンの設定およびオプションの変更

仮想マシンをそれぞれ選択し、全般設定、電源オプション、スナップショット オプション、および詳細オプションを調整できます。

仮想マシンの名前およびゲスト OS の変更

仮想マシンの名前およびゲスト OS を変更できます。

手順

- 1 [概要] タブのコマンド セクションで [仮想マシンの構成] をクリックします。
- 2 [全般] タブをクリックします。
- 3 仮想マシン名フィールドで、仮想マシンの新しい名前を入力します。
- 4 ゲスト OS セクションで、仮想マシンのゲスト OS を変更します。

注意 仮想マシンへの新しいゲスト OS のインストールを予定していない場合は、ゲスト OS は変更しないでください。

- 5 [OK] をクリックします。

仮想マシンの名前およびゲスト OS が再構成されます。

仮想マシンの電源設定の変更

電源制御オプションを使用して、仮想マシンの電源状態を変更したときに実行させるアクションを定義できます。

手順

- 1 仮想マシンの [概要] タブのコマンド セクションで、[仮想マシンの構成] をクリックします。
- 2 [電源] タブをクリックします。
- 3 仮想マシンのデフォルトのパワーオフ コマンドを選択します。

オプション	説明
パワーオフ	ゲスト OS サービスをクリーン シャットダウンすることなく仮想マシンをパワーオフします。
ゲストのシャットダウン	仮想マシンをパワーオフする前にゲストをシャットダウンします。

VMware Tools がインストールされていない場合は、デフォルトのアクションでは、ゲストをシャットダウンすることなく仮想マシンがパワーオフされます。VMware Tools がインストールされている場合は、デフォルトのアクションでは、仮想マシンをパワーオフする前にゲストがシャットダウンされます。

- 4 仮想マシンのデフォルトのサスペンド オプションを選択します。

オプション	説明
サスペンド	ゲスト OS をサスペンドすることなく仮想マシンをサスペンドします。
ゲストをサスペンド	仮想マシンをサスペンドする前にゲストをサスペンドします。

VMware Tools がインストールされていない場合は、デフォルトのアクションでは、ゲストをサスペンドすることなく仮想マシンがサスペンドされます。VMware Tools がインストールされている場合は、デフォルトのアクションでは、仮想マシンをサスペンドする前にゲストがサスペンドされます。

- 5 仮想マシンのデフォルトの再起動オプションを選択します。

オプション	説明
リセット	ゲストを再起動することなく仮想マシンを再起動します。
ゲストの再起動	仮想マシンを再起動する前にゲストを再起動します。

VMware Tools がインストールされていない場合は、デフォルトのアクションでは、ゲストをシャットダウンすることなく仮想マシンがリセットされます。VMware Tools がインストールされている場合は、デフォルトのアクションでは、仮想マシンをリセットする前にゲストがシャットダウンされます。

- 6 VMware Tools スクリプト セクションで、VMware Tools スクリプトを実行するタイミングを指定するための 1 つ以上のオプションを選択します。
- 7 BIOS セットアップセクションで、[この仮想マシンが次に起動するときに、BIOS セットアップ画面を表示する] チェック ボックスを選択し、次回仮想マシンがパワーオンされた直後に BIOS の設定画面が表示されるようにします。次回パワーオンされたあとは、この設定は無効になります。
- 8 詳細セクションで、VMware Tools オプションの 1 つまたは両方を選択します。
- 9 [OK] をクリックします。

仮想マシンの電源設定が再構成されます。

ホストに関連付けられた仮想マシンの設定の変更

仮想マシンの自動起動およびシャットダウン プロパティと遅延時間を設定できます。

起動およびシャットダウン設定は、ESX ホストの構成に関連付けられており、vSphere Web Access を使用して ESX ホストに接続するときのみ変更できます。


開始する前に

仮想マシンの起動およびシャットダウン設定を構成するには、ESX ホストにログインする必要があります。

必要な権限： **ホスト.構成.仮想マシンの自動起動構成**

手順

- インベントリ パネルで ESX ホストを選択します。
- [概要] タブをクリックし、コマンドセクションで [仮想マシンの起動/シャットダウン設定の編集] をクリックします。仮想マシンの起動/シャットダウン設定ダイアログ ボックスが表示されます。
- [システムに連動した仮想マシンの自動起動および停止を許可する] チェック ボックスを選択します。
- (オプション) [VMware Tools が起動したら、次の仮想マシンをすぐに起動する] チェック ボックスを選択し、VMware Tools の開始後すぐに仮想マシンを起動させます。
- (オプション) 少し時間をおいてオペレーティングシステムを起動させるには、[デフォルトの起動遅延時間] を入力します。
この遅延時間により、VMware Tools や起動中のシステムがスクリプトを実行できます。
- シャットダウン アクションを選択します。
- (オプション) ある一定の時間、各仮想マシンのシャットダウンを遅延させる場合、[デフォルトのシャットダウン遅延時間] の値を入力します。
このシャットダウン遅延時間は、遅延時間が経過するまで仮想マシンがシャットダウンしなかった場合にのみ適用されます。遅延時間になる前に仮想マシンがシャットダウンした場合、次の仮想マシンのシャットダウンが開始されます。
- [上へ移動] および [下へ移動] を使用して、システムの起動時に仮想マシンを開始する順序を指定します。

- 9 任意の仮想マシンにユーザー指定の自動起動と自動シャットダウンを構成するには、リストにある仮想マシンを選択し、[編集] をクリックします。
 - a 起動設定セクションで、いずれかのオプションを選択します。
 - [デフォルトの使用] を選択します。
 - [指定された設定の使用] を選択し、起動遅延時間を秒単位で入力して、[VMware Tools が起動したらすぐに続行する] チェック ボックスを選択または選択解除します。
 - b シャットダウン設定セクションで、いずれかのオプションを選択します。
 - [デフォルトの使用] を選択します。
 - [指定された設定の使用] を選択し、シャットダウン遅延時間を秒単位で入力し、[シャットダウンアクションの実行] ドロップダウン メニューからシャットダウン アクションを選択します。
-
-  **注意** シャットダウン アクションを変更した場合、シャットダウン遅延時間のテキスト フィールドに値を入力してください。テキスト フィールドは空欄にできません。遅延時間を入力しないと、シャットダウン アクションの変更を保存できません。また、vSphere Client 以外からシャットダウン アクションの設定にアクセスしているときにこの設定を変更した場合、シャットダウン遅延時間を正の値に設定していないと、この自動開始設定マネージャに変更が反映されません。
-
- c [OK] をクリックし、選択した仮想マシンの自動起動と自動シャットダウン設定の変更を承認します。
- 10 もう一度 [OK] をクリックし、ESX ホストの自動起動と自動シャットダウン設定の変更を承認します。

仮想マシンの詳細設定の変更

vSphere Web Access を使用して、仮想マシンを管理するための詳細設定を構成できます。詳細設定には、ログ管理、アクセラレーション機能の有効化または無効化、準仮想化のサポート、MMU のサポート、および仮想マシンの構成ファイルの変更があります。

次の詳細設定を構成できます。

- ESX または vCenter Server の実行中に収集する情報の種類
- ログ機能の有効化と無効化
- プログラムを仮想マシンで実行できない場合の、アクセラレーション機能の無効化
- 準仮想化をサポートするホストでパフォーマンスを改善する VMI (Virtual Machine Interface) 準仮想化の有効化
- 仮想 MMU サポートの使用の有無と使用方法の指定
- 仮想マシンの構成ファイルのパラメータの変更

注意 ドキュメントまたは当社のテクニカル サポートの指示に従う場合を除き、構成ファイルのパラメータは一切変更しないでください。

仮想マシンのランタイム設定の変更

ログ機能、アクセラレーション機能の無効化、デバッグ情報の記録、VMI 準仮想化の有効化、仮想 MMU (Memory Management Unit) 設定などの、仮想マシンのランタイム設定を構成できます。

手順

- 1 仮想マシンの [概要] タブのコマンド セクションで、[仮想マシンの構成] をクリックします。
- 2 [詳細] タブをクリックします。

- 3 設定セクションで、オプションを選択します。

オプション	説明
デバッグ情報の記録	デバッグ情報およびパフォーマンス情報を収集します。この情報を使用すると、問題のトラブルシューティングが可能です。
ログの有効化	イベントのログ機能を有効にします。
アクセラレーション機能の無効化	仮想マシンのアクセラレーション機能を無効にします。仮想マシンでプログラムのインストールまたはプログラムの起動時に、プログラムが停止または失敗したり、デバッグで実行中であると報告されたりする場合には、一時的にアクセラレーション機能を無効にできます。 アクセラレーション機能を無効にすると仮想マシンのパフォーマンスが低下するため、問題が解決したあとは [アクセラレーション機能の無効化] を選択解除します。
VMI 準仮想化のサポート	Linux ゲストで VMware VMI 3.0 に対応したカーネルを使用している場合、VMI 準仮想化によって仮想マシンのパフォーマンスが向上します。 準仮想化に関する詳細は、 http://www.vmware.com/interfaces/paravirtualization.html を参照してください。 VMI に対応した使用可能なカーネルには、Ubuntu 7.04 (Feisty) 以降が含まれます。32 ビット Intel x86 システムの標準イメージを使用します。現在のところ VMI は 32 ビット ゲストのみでサポートされています。 注意 ハードウェアバージョン 7.0 の仮想マシンのみが、VMI をサポートしています。

- 4 仮想化 MMU セクションで、オプションを選択します。

最近の CPU は MMU の仮想化に対応しています。通常、MMU を仮想化すると、仮想マシンのパフォーマンスが向上します。MMU を仮想化しないほうがよい場合もあります。

- 5 [OK] をクリックします。

仮想マシンのランタイム設定が再構成されます。

仮想マシン構成ファイルへのパラメータの追加

仮想マシンの構成ファイルにパラメータを追加できます。

注意 構成ファイルは、手動で編集しないでください。

手順

- 1 仮想マシンの [概要] タブのコマンド セクションで、[仮想マシンの構成] をクリックします。
- 2 [詳細] タブをクリックします。
- 3 構成パラメータ セクションで [新規エントリの追加] をクリックし、フィールドに情報を入力します。
- 4 [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

仮想マシンの構成ファイルのパラメータの編集

仮想マシンの構成ファイルに含まれるパラメータの値を変更できます。

手順

- 1 仮想マシンの [概要] タブのコマンド セクションで、[仮想マシンの構成] をクリックします。
- 2 [詳細] タブをクリックします。
- 3 構成パラメータ セクションで、パラメータを選択し、[編集] をクリックして、[値] フィールドに新しい値を入力します。
- 4 [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

仮想マシンへのハードウェアの追加

さまざまなタイプの仮想デバイスを仮想マシンに追加し、それらに対応する物理デバイスに接続できます。

仮想マシンへのハードウェアの追加

[ハードウェアの追加]ウィザードを使用して、仮想マシンに新しいハードウェアを追加します。

開始する前に

ハードウェアを追加する前に、仮想マシンをパワーオフします。SCSI ハード ディスクを追加する場合は、仮想マシンはパワーオン状態のままにしておくことができます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 ハードウェア タイプ ページで、追加するハードウェアのタイプを選択します。

仮想ハード ディスクの追加

仮想マシンに複数の仮想ディスクを追加できます。

仮想ディスクは、データストアにファイルとして格納できます。データストアは、ローカルファイルシステムまたはリモート VMFS SAN データストアに置くことができます。IDE 仮想ディスクまたは SCSI 仮想ディスクを、IDE 物理ハード ディスクまたは SCSI 物理ハード ディスクのいずれかに格納できます。

SCSI 仮想ディスクは、バージョン 7.0 より古いハードウェアを持つパワーオン状態の仮想マシンに追加できます。以前のバージョンのハードウェアを持つ仮想マシンの場合は、使用可能なスロットがある SCSI コントローラが存在する場合にのみ、仮想マシンがパワーオン状態のときに SCSI 仮想ディスクを追加できます。SCSI 仮想ディスクまたはパススルー SCSI デバイスを仮想マシンに追加すると、SCSI コントローラが作成されます。バージョン 7.0 より古いハードウェアの仮想マシンでは、仮想マシンがパワーオン状態のときには SCSI コントローラは作成できません。

IDE 仮想ディスクは、仮想マシンがパワーオン状態のときには追加できません。

注意 SCSI 仮想ディスクを持つ Windows NT 4.0 ゲストがある場合は、追加の SCSI ディスク、あるいは IDE ディスクを構成に追加することはできません。

ハード ディスクの追加

新規または既存の仮想ディスクを仮想マシンに追加できます。

開始する前に

始める前に、「[仮想ハード ディスクの追加 \(P.47\)](#)」でハードディスクのタイプおよびプロパティの設定を確認してください。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [ハード ディスク] をクリックします。
- 4 仮想ディスクを作成するか、既存の仮想ディスクを使用するかを選択します。
- 5 プロパティ ページで必要に応じてデフォルトの値を変更し、[次へ] をクリックします。
- 6 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

ゲスト OS に新しい空のハード ディスクとして仮想ディスクが表示されます。

次に進む前に

仮想マシンに新しい仮想ディスクを追加する場合、ゲスト OS のユーティリティを使用してディスクのパーティショニングとフォーマットが可能です。

ネットワーク アダプタの追加

仮想マシンに複数のネットワーク アダプタを追加できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [ネットワーク アダプタ] を選択します。
- 4 プロパティ ページで、新しいネットワーク アダプタのネットワーク接続タイプを選択します。
- 5 仮想マシンのパワーオン時にネットワーク アダプタを接続するかどうかを選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 終了準備の完了ページでネットワーク アダプタの設定を確認し、[終了] をクリックします。

次に進む前に

ネットワーク アダプタを使用して、新しいネットワーク接続を設定します。

CD/DVD ドライブの追加

仮想マシンには、4つのCD/DVD ドライブを追加できます。仮想マシンのドライブは、ホストマシン上の物理ドライブまたはISO イメージに接続できます。

仮想 IDE の CD/DVD ドライブでは、物理 IDE ドライブまたは物理 SCSI ドライブを使用できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [CD/DVD ドライブ] をクリックします。
- 4 ホスト メディア セクションで、ホストの物理ドライブに接続するか、ISO イメージに接続するかを選択して [次へ] をクリックします。
- 5 プロパティ ページで、使用する物理デバイスまたは ISO イメージを指定します。
 - [物理ドライブを使用する] を選択した場合は、使用するドライブを指定します。
 - [ISO イメージを使用する] を選択した場合は、[参照] をクリックして、既存のデータストア内の **.iso** という拡張子の付いたファイルに移動します。
- 6 (オプション) 仮想マシンのパワーオン時に仮想マシンにドライブを接続するには、[パワーオン時に接続] を選択します (デフォルト)。
- 7 (オプション) 仮想デバイス ノード セクションで、ドロップダウン メニューからアダプタおよびデバイス ノードを選択します。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

次回仮想マシンをパワーオンしたときに、ゲスト OS が新しい CD/DVD ドライブを検出します。

フロッピー ドライブの追加

ホスト上の物理フロッピー ドライブまたは仮想ドライブのホスト上にあるフロッピー イメージ ファイルを使用できます。

仮想マシンにはフロッピー ドライブを 2 つ追加できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [フロッピー ドライブ] をクリックします。
- 4 [ホスト メディア] の下にある、ホストのドライブまたはフロッピー イメージに接続するオプションを選択して [次へ] をクリックします。
- 5 プロパティ ページで、使用する物理デバイスまたはフロッピー イメージを指定します。
 - [物理ドライブを使用する] を選択した場合は、使用するドライブを選択します。
 - [フロッピー イメージを使用する] または [新規フロッピー イメージを作成する] を選択した場合は、[参照] をクリックして、新しいファイルの場所を選択するか、既存のデータストア内の **.flp** という拡張子の付いたファイルに移動します。
- 6 (オプション) 仮想マシンのパワーオン時に仮想マシンにドライブを接続するには、[パワーオン時に接続] (デフォルト) を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

次回仮想マシンをパワーオンしたときに、ゲスト OS が新しいフロッピー ドライブを検出します。

シリアル ポートの追加

仮想マシンに仮想シリアルポートを設定して、ホストコンピュータの物理シリアルポートを使用できます。また、シリアルポートの出力ファイルや名前付きパイプを作成することもできます。

物理シリアルポートの追加

仮想マシンに物理シリアルポートを追加すると、仮想マシンで外部デバイスを使用できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [シリアルポート] をクリックします。
- 4 [物理シリアルポートを使用する] をクリックします。
- 5 プロパティ ページで、ドロップダウン メニューから物理ポートを選択します。
- 6 (オプション) 仮想マシンのパワーオン時にホストのシリアルポートに仮想マシンを接続するには、[パワーオン時に接続] を選択します (デフォルト)。
- 7 (オプション) [入出力モード] を展開し、[ポーリング時に CPU を放棄] を選択します。
ターゲット仮想マシン内のカーネルは、仮想シリアルポートを割り込みモードではなくポーリングモードで使用します。
このオプションが適用されるのは Windows ホストだけです。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

次回仮想マシンをパワーオンしたときに、オペレーティングシステムが新しいシリアルポートを認識します。

出力シリアルポートの追加

実行中のプログラムが送信するデータを出力シリアルポートに出力させ、取得することができます。出力ファイルを読み取ってデータを表示できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [シリアルポート] をクリックします。
- 4 [出力ファイルを使用する] をクリックして、ゲスト OS で実行されているアプリケーションの出力をホストマシン上のファイルに送信します。
- 5 プロパティ ページで、出力ファイルのパスおよびファイル名を入力するか、[参照] をクリックしてファイルへ移動します。
- 6 (オプション) 仮想マシンのパワーオン時にホストの出力ファイルに仮想マシンを接続するには、[パワーオン時に接続] を選択します (デフォルト)。

- 7 (オプション) [入出力モード] を展開し、[ポーリング時に CPU を放棄] を選択します。これはデフォルトでは選択解除されています。

ターゲット仮想マシン内のカーネルは、仮想シリアルポートを割り込みモードではなくポーリングモードで使用します。
このオプションが適用されるのは Windows ホストだけです。

- 8 [次へ] をクリックします。

- 9 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

次回仮想マシンをパワーオンしたときに、オペレーティングシステムが新しいシリアルポートを認識します。

名前付きパイプのシリアルポートの追加

仮想マシンをホストシステムで実行されているアプリケーションまたは別の仮想マシンに接続する場合、名前付きパイプのシリアルポートを追加できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [シリアルポート] をクリックします。
- 4 [名前付きパイプを使用する] をクリックします。
- 5 プロパティ ページで、パイプのパスおよびファイル名を入力します。
 - Windows ゲストの場合：パイプ名は、`¥¥.¥pipe¥<名前付きパイプ>` の形式にする必要があります。
 - Linux ゲストの場合：パイプ名は、`/tmp/<<ソケット>>` の形式または UNIX ソケット名にする必要があります。
- 6 [近端] で、ゲスト OS 内で実行されているアプリケーションが、サーバとして機能するのか、クライアントとして機能するのかを選択します。
 - 接続の近端を最初に起動する場合は、[サーバ] を選択します。
 - 接続の遠端を最初に起動する場合は、[クライアント] 選択します。
- 7 [遠端] で、仮想マシンから接続するアプリケーションの場所を指定します。
 - 仮想マシンから接続するアプリケーションが、ホスト上の別の仮想マシン上に置かれている場合は、[仮想マシン] を選択します。
 - 仮想マシンから接続先するアプリケーションがホストマシン上で直接実行されている場合は、[アプリケーション] を選択します。
- 8 (オプション) 仮想マシンのパワーオン時に名前付きパイプに接続するには、[パワーオン時に接続] を選択します (デフォルト)。
- 9 (オプション) [入出力モード] を展開し、[ポーリング時に CPU を放棄] を選択します。これはデフォルトでは選択解除されています。
ターゲット仮想マシン内のカーネルは、仮想シリアルポートを割り込みモードではなくポーリングモードで使用します。
このオプションが適用されるのは Windows ホストだけです。
- 10 [次へ] をクリックします。
- 11 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

次回仮想マシンをパワーオンしたときに、オペレーティングシステムが新しいシリアルポートを認識します。

パラレル ポートの追加

プリンタ、スキャナ、 dongle、ディスクドライブなどのさまざまなデバイスがパラレルポートを使用します。仮想パラレルポートは、パラレルポートまたはホスト OS 上のファイルに接続できます。

物理パラレルポートの追加

仮想マシンに仮想パラレルポートを追加すると、仮想マシンの物理パラレルポートに接続されている外部デバイスを使用できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [パラレルポート] をクリックします。
- 4 [物理パラレルポートを使用する] をクリックし、ホストマシン上の物理ポートに接続します。
- 5 プロパティ ページで、ドロップダウンメニューから物理ポートを選択します。
- 6 (オプション) 仮想マシンのパワーオン時にホストのシリアルポートに仮想マシンを接続するには、[パワーオン時に接続] (デフォルト) を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

次回仮想マシンをパワーオンしたときに、オペレーティングシステムが新しいパラレルポートを検出します。

出力パラレルポートの追加

実行中のプログラムが送信するデータを出力パラレルポートに出力させ、取得することができます。出力ファイルを読み取ることによってデータを表示できます。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [パラレルポート] をクリックします。
- 4 [出力ファイル] をクリックします。
- 5 プロパティ ページで、出力ファイルのパスおよびファイル名を入力するか、[参照] をクリックしてファイルへ移動します。
- 6 (オプション) 仮想マシンのパワーオン時にホストのシリアルポートに仮想マシンを接続するには、[パワーオン時に接続] (デフォルト) を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

次回仮想マシンをパワーオンしたときに、オペレーティングシステムが新しいパラレルポートを検出します。

パススルー SCSI デバイスの追加

仮想マシンの仮想 SCSI デバイスをホストの物理 Generic SCSI デバイスにマッピングするには、仮想マシンに Generic SCSI デバイスを追加します。

SCSI デバイスは仮想マシンをパワーオフすることなく追加できます。

開始する前に

権限について次の要件があります。

- Windows ゲストでは、必ずシステム管理者のアクセス権を持つユーザーでログインする。
- Linux ゲストでは、デバイスを使用するために、必ず読み取りおよび書き込み権限を持つユーザーでログインする。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [パススルー SCSI デバイス] をクリックします。
- 4 使用する SCSI デバイスを選択します。
物理 SCSI デバイスとそのデバイスに接続され、さらに仮想マシンに接続されている必要があります。
- 5 (オプション) [仮想デバイス ノード] セクションで、ドロップダウン メニューから SCSI アダプタおよびデバイス ノードを選択します。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

次回仮想マシンをパワーオンしたときに、オペレーティング システムが新しい SCSI デバイスを認識します。

USB コントローラの追加

仮想マシンに USB コントローラを追加できます。仮想マシン内の USB デバイスを接続して使用することはできません。

手順

- 1 インベントリ パネルで、変更する仮想マシンを選択します。
- 2 [概要] タブのコマンド セクションで [ハードウェアの追加] をクリックします。
[ハードウェアの追加]ウィザードが開きます。
- 3 [USB コントローラ] をクリックします。
- 4 終了準備の完了ページで構成内容を確認し、[終了] をクリックします。

スナップショットの作成と管理

スナップショットは仮想マシンの現在の状態を保存できるため、必要に応じてその状態に戻ることができます。プログラムのアップデート パッケージや異なるバージョンをインストールするとき、スナップショットをリストア ポイントとして使用できます。

スナップショットには次の情報が含まれます。

メモリ状態	仮想マシンのメモリ コンテンツ。
設定状態	仮想マシンの設定。
ディスク状態	すべての仮想マシンの仮想ディスクの状態。

スナップショットに戻ると、これらをスナップショットの作成時の状態に戻すことができます。スナップショットは個々の仮想マシンで操作されます。

スナップショットを使用すると、複数の仮想マシンを作成しなくても、何度でも同じ状態に戻すことができます。スナップショットの線形処理では、バックアップを作成し、状態をリストアします。プロセス ツリーで仮想マシンを分ける前にベースラインを保存することもできます。

同じ仮想マシンのスナップショットを複数作成できます。複数のスナップショットを使用して、さまざまな工程の異なる状態を保存できます。スナップショットの作成可能なレベルは 32 までですが、レベルごとに、スナップショットの保存または削除にかかる時間は長くなります。データの量および仮想マシンの RAM のサイズに応じて必要な時間は異なります。

注意 スナップショットは、ESX 3.0 より前のバージョンでは利用できません。RAW ディスクや RDM 物理モード ディスクでは、スナップショットはサポートされていません。

この章では次のトピックについて説明します。

- [スナップショットを作成しないとき \(P. 56\)](#)
- [スナップショットとログの変更 \(P. 56\)](#)
- [スナップショットの作成 \(P. 56\)](#)
- [スナップショットへの復帰 \(P. 57\)](#)
- [スナップショットの削除 \(P. 57\)](#)
- [スナップショットのパワーオフ オプションの設定 \(P. 57\)](#)

スナップショットを作成しないとき

仮想マシン内のアプリケーションがほかのコンピュータにトランザクションを送信していないとき、スナップショットを作成するのに最適です。仮想マシンがほかのコンピュータにトランザクションを送信している場合、またはほかのコンピュータからトランザクションを受信している場合は、特に本番環境にある場合、問題が起こる可能性が高くなります。

次のような条件下ではスナップショットを作成しないことを推奨します。

- 仮想マシンが、ネットワーク上のサーバからファイルをダウンロードしているとき。スナップショットの作成後、仮想マシンはファイルのダウンロードを継続し、サーバに進捗状況を転送します。そのスナップショットに戻すと、仮想マシンとサーバ間の転送が混乱し、ファイルの転送は失敗します。
- 仮想マシンのアプリケーションが、別のマシンにあるデータベースにトランザクションを送信しているとき。このスナップショットに戻すと、(特にトランザクションが開始してからコミットする前の状態にある場合に) データベースが破損する可能性があります。

スナップショットとログの変更

スナップショットを作成したあとは、仮想マシンは新しいデータを REDO ログ ファイルに書き込みます。これらのファイルは、保存されたデータが蓄積し続けるため、スナップショットに影響があるアクションを実行するまで拡大します。

また、スナップショットに対する別のアクションで、REDO ログ ファイルに異なる影響を与えるものがあります。

- スナップショットを削除する場合、REDO ログ ファイル内の蓄積された変更が、ベースの仮想ディスクファイルに永続的に書き込まれます。
- そのスナップショットに戻すときに REDO ログ ファイルの内容は破棄されます。以降の変更はすべて新しい REDO ログファイルに蓄積されます。
- すでにスナップショットを持つ仮想マシンでスナップショットを作成すると、REDO ログファイルに蓄積された変更は、ベースの仮想ディスクファイルに永続的に書き込まれます。以降の変更はすべて新しい REDO ログファイルに蓄積されます。

スナップショットの作成

仮想マシンがパワーオン状態、パワーオフ状態、またはサスペンド状態のときにスナップショットを作成できます。

仮想マシンがほかのコンピュータと通信中の場合には、スナップショットの作成は行わないでください。

注意 仮想マシンに高いパフォーマンスが必要な場合は、スナップショットを作成する前に、ゲスト OS の最適化を行うことを検討してください。ゲスト OS の最適化ユーティリティを使用します。

開始する前に

スナップショットから仮想ディスクを除くには、ディスク モードを変更します。ディスク モードの変更に関する詳細については、「[ハードディスクの変更 \(P. 37\)](#)」を参照してください。

仮想マシンをサスペンド状態にする処理を行なっている場合は、スナップショットを作成する前にサスペンド処理が完了するのを待ってください。

手順

- 1 仮想マシンの [概要] タブにあるコマンド セクションで、スナップショットのコマンドを展開 (まだ展開していない場合) し、[スナップショットの作成] をクリックします。
- 2 スナップショット名とメモを入力し、[OK] をクリックします。

スナップショットが作成されます。

スナップショットへの復帰

仮想マシンを、スナップショットを作成した特定の時点にリストアすることができます。現在のディスク、設定、およびメモリの各状態は破棄され、仮想マシンはスナップショットのディスク、設定、およびメモリの各状態に戻ります。

手順

- 1 仮想マシンの [概要] タブにあるコマンド セクションで、スナップショットのコマンドを展開（まだ展開していない場合）し、[スナップショットの管理] をクリックします。
- 2 [<仮想マシン> のスナップショット] ウィンドウで、復帰する時点のスナップショットを選択し、[スナップショットまで戻る] をクリックします。
- 3 確認のダイアログ ボックスで [戻る] をクリックします。

仮想マシンをパワーオフするときは常に、仮想マシンを自動的にスナップショットに戻すようにするか、スナップショットに戻すかどうかを問い合わせるようにするかを構成することもできます。[\[スナップショットのパワーオフ オプションの設定 \(P. 57\)\]](#) を参照してください。

スナップショットの削除

スナップショットを削除すると、スナップショットの内容が仮想ディスクに書き込まれます。この処理によって、仮想マシン内のデータが破壊されることはありません。その後、仮想マシンの実行中に加える変更はすべて仮想ディスクに書き込まれます。

仮想マシンがパワーオフされている場合は、スナップショット ファイルのサイズによって、スナップショットの削除に長時間かかる場合があります。

手順

- 1 仮想マシンをパワーオフします。
- 2 仮想マシンの [概要] タブにあるコマンド セクションで、スナップショットのコマンドを展開（まだ展開していない場合）し、[スナップショットの管理] をクリックします。
- 3 [<仮想マシン> のスナップショット] ウィンドウで、スナップショットを選択し、[スナップショットの削除] をクリックします。
- 4 確認のダイアログ ボックスで [削除] をクリックします。

スナップショットが削除されます。

スナップショットのパワーオフ オプションの設定

仮想マシンをパワーオフするときは常に、仮想マシンを自動的にスナップショットに戻すようにするか、スナップショットに戻すかどうかを問い合わせることができる。

スナップショットまで戻ると、すべての変更内容が破棄されます。たとえば、インストラクターがコンピュータ講習の終了後、仮想マシンをパワーオフするときにその講習での受講生の回答を破棄するといった使用方法があります。

手順

- 1 仮想マシンの [概要] タブのコマンド セクションで、[仮想マシンの構成] をクリックします。
- 2 [スナップショット] タブをクリックします。

- 3 パワーオフ時セクションで、仮想マシンをパワーオフしたときの、仮想マシンのスナップショットの動作を選択します。

オプション	アクション
パワーオフのみ	スナップショットに一切変更を加えることなくパワーオフします。
スナップショットまで戻る	現在のスナップショットに戻り、仮想マシンが現在のスナップショットが作成されたときの状態から常に起動するようにします。
ユーザーに問い合わせる	仮想マシンをパワーオフするとき、パワーオフのみを行うか、現在のスナップショットに戻すかを指定するよう要求されます。

- 4 [OK] をクリックします。

これで、スナップショットのパワーオフ オプションが変更されました。

vSphere Web Access のエラーのトラブルシューティング

7

vSphere Web Access の実行時に問題が発生した場合は、トラブルシューティングを行なって問題を解決します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ブラウザエラー 503 サービスを使用できません \(P. 59\)](#)
- [VMware Remote Console が Internet Explorer でロードされない \(P. 60\)](#)
- [VMware Remote Console が Firefox でロードされない \(P. 61\)](#)
- [ゲスト OS にソフトウェアをインストールする際に発生する問題 \(P. 61\)](#)
- [仮想マシンの電源操作時に発生する問題 \(P. 61\)](#)
- [サポート対象外のバージョンの Firefox \(P. 62\)](#)
- [Web プロキシが IPv6 アドレスをサポートしない \(P. 62\)](#)

ブラウザ エラー 503 サービスを使用できません

ブラウザで、vSphere Web Access サービスを使用できないというメッセージが表示される場合があります。

問題

vSphere Web Access が開かず、ブラウザに **503 Service Unavailable** (サービスを使用できません) というエラーが表示される。

原因

ESX ホストまたは vCenter Server の vSphere Web Access サービスが自動的に実行するように構成されていないか、正常に起動できなかったことを示しています。

解決策

ESX ホストまたは vCenter Server インスタンスで vSphere Web Access サービスを起動します。

ESX	<ol style="list-style-type: none"> ESX サービス コンソールにログインします。 service vmware-webAccess status と入力して、ホストの vSphere Web Access サービスの状態を確認します。 vSphere Web Access サービスが停止している場合は、service vmware-webAccess start と入力します。 <p>これで、vSphere Web Access サービスが ESX ホストで起動されます。</p>
vCenter Server	<ol style="list-style-type: none"> vCenter Server インスタンスにログインします。 vCenter Server Desktop で、[マイ コンピュータ] を右クリックし、[管理] を選択します。 <p>[コンピュータの管理] ウィンドウが表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> [サービスとアプリケーション] を展開し、[サービス] を選択します。 リストから VMware VirtualCenter Management Webservices を探し、サービスが実行されているかどうかを確認します。 サービスが実行中でない場合、[VMware VirtualCenter Management Webservices] を右クリックし、[開始] を選択します。 <p>これで、vSphere Web Access サービスが vCenter Server で起動されます。</p>

VMware Remote Console が Internet Explorer でロードされない

Microsoft Internet Explorer ブラウザで Console が正常にロードできない場合は、プラグイン インストールのトラブルシューティングが必要な場合があります。

問題	解決策
古いバージョンのプラグイン	<ol style="list-style-type: none"> Windows で、[スタート] - [設定] - [コントロール パネル] - [プログラムの追加と削除] を選択します。 プログラムのリストで、[VMware Remote Console Plug-in] をクリックします。 [サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください] をクリックして、VMware Remote Console Plug-in のバージョンを確認します。 <p>VMware Remote Console Plug-In の [Version] 列に 2.5.0.x と表示されるはずですが、それより以前のバージョンが表示された場合は、[削除] をクリックします。</p> <ol style="list-style-type: none"> プラグインを再インストールします。
プラグインのインストールエラー	<ol style="list-style-type: none"> Internet Explorer を終了します。 Internet Explorer をもう一度起動します。 Internet Explorer のウィンドウで、vSphere Web Access の URL を入力します。 <p>https://<<vmwarehost.yourdomain.com>>/ui</p> <ol style="list-style-type: none"> [仮想マシン] リストから仮想マシンを選択します。 [コンソール] タブをクリックします。 プラグインをインストールするプロンプトが表示されたら、[OK] をクリックします。 <p>インストールが完了したら、Internet Explorer を再起動します。</p>

VMware Remote Console が Firefox でロードされない

Mozilla Firefox ブラウザで VMware Remote Console が正常にロードされない場合は、まずプラグイン インストールのトラブルシューティングを行います。

問題	解決策
古いバージョンの VMware Remote Console	<ol style="list-style-type: none"> Firefox で、[ツール] - [アドオン] を選択します。 VMware Remote Console のプラグインのバージョンが 2.5.0.x と表示されるはずですが、 それより前のバージョンの場合は、プラグインを再インストールします。
VMware Remote Console のインストール エラー	<ol style="list-style-type: none"> Firefox を終了します。 Firefox を再起動します。 vSphere Web Access の URL を入力します。 https://<<vmwarehost.yourdomain.com>>/ui [仮想マシン] リストから仮想マシンを選択します。 [コンソール] タブをクリックします。 プラグインをインストールするプロンプトが表示されたら、[OK] をクリックします。 インストールが完了したら、Firefox を再起動します。

ゲスト OS にソフトウェアをインストールする際に発生する問題

vSphere Web Access のゲスト OS にソフトウェアをインストールすると、問題が発生することがあります。

問題	原因	解決策
ゲスト OS がインストール メディアを認識しない	ESX がインストール メディアにアクセスできない	ESX から、ソフトウェアのインストールに使用されるメディアにアクセスできることを確認します。仮想マシンから、インストールに使用する CD-ROM ドライブ、ISO イメージ ファイル、またはフロッピー ドライブにアクセスできることを確認します。
アプリケーションの実行時に ESX が応答しない	仮想マシンのアクセラレーション機能が有効にされていると、アプリケーションのパフォーマンスが低下します。アクセラレーション機能は、プログラムの実行上の問題を切り抜けるためにのみ無効にすることをお勧めします。プログラムで発生している問題を切り抜けたら、アクセラレーション機能のオプションを再度有効にします。	<ol style="list-style-type: none"> 仮想マシンの [概要] タブをクリックします。 コマンド セクションで [仮想マシンの構成] を選択します。 [仮想マシンの構成] ウィンドウで、[詳細] タブをクリックし、[アクセラレーション機能の無効化] チェック ボックスを選択します。
ソフトウェアのアクティベーション キーが無効である	一部のアプリケーションでは、キーを作成する製品アクティベーション機能が使用されません。このキーはインストール先の仮想マシンの仮想ハードウェアに基づきます。仮想マシンの構成を変更した場合は、ソフトウェアを再度アクティベートする必要があります。	仮想ハードウェアで大幅な変更の回数を最小限に抑えるには、メモリ サイズを設定し、VMware Tools をインストールします。

仮想マシンの電源操作時に発生する問題

選択した仮想マシンの電源操作時に問題が発生する場合、Linux ディストリビューションでライブラリが不足している可能性があります。

問題

ESX ホスト上の仮想マシンをパワーオンできない。

原因

Linux ディストリビューションでライブラリが不足しています。

解決策

この問題を解決するには、不足しているライブラリをすべてインストールする必要があります。

- 1 libmks.so、viewer、および remotemks のバイナリに対する ldd などの依存関係を確認するツールが必要です。
- 2 次のコマンドを使用して不足しているライブラリを特定します。

```
cd ~/.mozilla/plugins
ldd ./libmks.so | grep not
ldd ./viewer | grep not
ldd ./remotemks | grep not
```

- 3 出力内容から不足しているライブラリを確認します。
これらの手順で何も出力されない場合は、必要なすべてのライブラリがすでに存在しています。
- 4 不足していると示されたライブラリをインストールします。

サポート対象外のバージョンの Firefox

vSphere Web Access の実行がサポートされていないバージョンの Firefox を使用している場合、問題が発生する可能性があります。

問題

Firefox で vSphere Web Access を開けない。

原因

次のいくつかが原因で、この問題が発生することがあります。

- 使用しているバージョンの Mozilla Firefox が GTK をサポートしていない。
- 使用しているバージョンの Mozilla Firefox ブラウザ インストールが、使用している Linux ディストリビューションに含まれていた。一部のディストリビューションでは Firefox が正しくパッケージングされておらず、vSphere Web Access と連動しません。

解決策

Mozilla Web サイトから、最新バージョンの Firefox をダウンロードしてインストールします。

Web プロキシが IPv6 アドレスをサポートしない

ESX ホストまたは vCenter Server のアドレスが IPv6 である場合、Web ブラウザでエラー メッセージが表示され、vSphere Web Access を開けない場合があります。

問題

ESX ホストまたは vCenter Server のアドレスが IPv6 である場合、vSphere Web Access を開けない。Web ブラウザは、次のメッセージを表示します。エラー: リクエストされた URL は取得できませんでした。このエラーは、次の URL を取得しようとした際に発生しました。http://<<ホスト名またはサーバ名>>:<<ポート>>

原因

Web プロキシが IPv6 アドレスをサポートしていません。

解決策

Web プロキシが IPv6 アドレスをサポートしているかを確認するか、Web ブラウザ アプリケーションでプロキシを無効にします。表 7-1 では、ブラウザでの Web プロキシの使用を停止する方法を示しています。

表 7-1. Internet Explorer および Firefox での Web プロキシの無効化

ブラウザ	操作
Internet Explore	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ツール] - [インターネット オプション] を選択します。 2 [接続] タブをクリックし、[LAN の設定] をクリックします。 3 [LAN にプロキシ サーバーを使用する] チェック ボックスを選択解除し、[OK] をクリックします。
Firefox	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ツール] - [オプション] を選択します。 2 [詳細] タブを選択し、[ネットワーク] サブタブを選択します。 3 [接続設定] を選択し、[プロキシを使用しない] オプションを選択して [OK] をクリックします。

インデックス

C

- CD/DVD ドライブ
 - 構成 36
 - 削除 40
 - 追加 48

E

- ESX ホストの関連オプション 44

S

- SCSI コントローラ 38
- SCSI デバイス
 - 構成 38
 - 削除 41
 - 追加 52

U

- USB コントローラ、追加 53

V

- VMware Remote Console
 - Ctrl + Alt + Delete の送信 27
 - Firefox へのインストール 24
 - Internet Explorer へのインストール 25
 - 仮想マシンのサスペンド 27
 - 仮想マシンのトラブルシューティング 27
 - 仮想マシンのパワーオフ 27
 - 仮想マシンのリセット 27
 - キーボード ショートカット 27
 - 起動 26
 - 終了 27
 - ツールバーの非表示 26
 - ツールバーを常に表示 26
 - フル スクリーンでの実行 26
 - 別ウィンドウでの実行 26
 - ログの表示 27
- VMware Tools
 - Linux、Solaris、または FreeBSD での起動 29
 - Windows での実行 29
 - Windows でのプロパティ設定 29
 - アップグレード 29
 - インストール 28
- vSphere Web Access サービス
 - ESX での実行 11
 - vCenter Server での実行 12
- vSphere Web Access の機能 7, 8

お

- オペレーティング システム、サポート対象 8

か

- 仮想マシン
 - ESX ホストの関連オプション 44
 - Web ショートカット 31
 - アラーム 30
 - イベント 30, 31
 - 起動およびシャットダウン設定 44
 - 削除 33
 - 作成 16
 - 詳細設定 45
 - ショートカットの生成 31
 - 設定 43
 - タスク 30
 - 追加 15
 - デスクトップ ショートカット 32
 - 電源状態の変更 33
 - 電源設定 43
 - ハードウェア バージョンのアップグレード 33
 - メモリ構成 36
 - ランタイム設定 45
- 仮想マシンの作成
 - CD/DVD ドライブの追加 20
 - CD/DVD ドライブへの ISO イメージの使用 21
 - USB コントローラの追加 23
 - 新しい仮想ディスクのカスタマイズ 18
 - 新しいフロッピー イメージの作成 22
 - ウィザードの起動 16
 - 既存のハード ディスクの参照 19
 - ゲスト OS の選択 17
 - 名前と場所の指定 17
 - ネットワーク アダプタの追加 19
 - ハードウェア構成の確認 23
 - ハード ディスクの追加 18
 - 物理 CD/DVD ドライブの使用 20
 - 物理フロッピー ドライブの使用 22
 - フロッピー イメージの使用 22
 - フロッピー ドライブの追加 21
 - メモリ容量とプロセッサ数の指定 17
- 仮想マシン名 43
- 仮想ディスクの圧縮 29

き

起動およびシャットダウン設定、仮想マシン 44
 起動設定、仮想マシン 44

く

クライアント デバイス
 接続 26
 定義 26
 ドライブのイメージ ファイルへの接続 27

け

ゲスト OS
 CD/DVD のインストール 23
 ISO イメージのインストール 23
 設定 43
 ソフトウェアのインストール 61

こ

構成
 CD/DVD ドライブ 36
 SCSI コントローラ 38
 SCSI デバイス 38
 仮想マシン 35
 シリアル ポート 40
 ディスク ドライブ 37
 ネットワーク アダプタ 39
 ハード ディスク 37
 パラレル ポート 39
 プロセッサ 35
 フロッピー ドライブ 37
 メモリ割り当て 36

さ

サポート対象オペレーティング システム 8

し

システム要件
 オペレーティング システム要件 8
 ハードウェア要件 8
 ブラウザ要件 9
 シャットダウン設定、仮想マシン 44
 出力シリアル ポート、追加 50
 出力パラレル ポート、追加 52
 詳細設定
 パラメータの追加 46
 パラメータの編集 46
 シリアル ポート
 構成 40
 削除 42
 追加 50

す

スナップショット
 アクティビティの競合 56

削除 57
 作成 56
 説明 55
 パワーオフ オプション 57
 復帰 57
 ログの変化 56

て

ディスク ドライブ
 構成 37
 追加 49
 電源設定 43

と

トラブルシューティング
 VMware Remote Console インストール 60, 61
 Web プロキシが IPv6 アドレスをサポートしない 62
 エラー 503 59
 ゲスト OS へのソフトウェアのインストール 61
 サポートされていない Firefox のバージョン 62
 電源操作 61

な

名前付きパイプ 51

ね

ネットワーク アダプタ
 構成 39
 削除 42
 ハードウェアの追加 48

は

ハードウェア構成
 CD/DVD ドライブ 36
 SCSI コントローラ 38
 SCSI デバイス 38
 クライアントのメディアを使用する CD/DVD ドライブ 36
 クライアントのメディアを使用するフロッピー ドライブ 37
 シリアル ポート 40
 ディスク ドライブ 37
 ネットワーク アダプタ 39
 ハードウェアの追加 47
 ハード ディスク 37
 パラレル ポート 39
 プロセッサ 35
 フロッピー ドライブ 37
 ホストのメディアを使用する CD/DVD ドライブ 36
 ホストのメディアを使用するフロッピー ドライブ 37
 メモリ 36
 ハードウェアの構成 35

- ハードウェアの追加
 - CD/DVD ドライブ 48
 - USB コントローラ 53
 - 出力シリアル ポート 50
 - 出力パラレル ポート 52
 - シリアル ポート 50
 - ディスク ドライブ 49
 - ネットワーク アダプタ 48
 - ハード ディスク 47, 48
 - パラレル ポート 52
 - 物理シリアル ポート 50
 - 物理パラレル ポート 52
 - フロッピー ドライブ 49
 - ハードウェア要件 8
 - ハード ディスク
 - 構成 37
 - 削除 41
 - 追加 47, 48
 - パイプ、名前付き 51
 - パラレル ポート
 - 構成 39
 - 削除 42
 - 追加 52
 - パワーオフ、スナップショット 57
- ふ**
- 物理シリアル ポート、追加 50
 - ブラウザ、サポート対象 9
 - プロセッサ 35
 - フロッピー ドライブ
 - 構成 37
 - 削除 41
 - 追加 49
- め**
- メモリ構成 36
- ら**
- ランタイム設定 45
- ろ**
- ログアウト 13
 - ログイン 12

